週刊 YEARBOOK

日録20世紀

1998
平成10年

2|16
平成11年2月16日発行
(毎週1回火曜日発行)
第3巻第6号 通巻98号
平成10年8月21日第三種郵便物認可
¥560
講談社

横浜ベイスターズ、日本一!

山一証券"最後の日"と「自主廃業」の疑問
砒素カレーなど「毒物混入」魔の連鎖反応!
北朝鮮「テポドン1号」発射騒動の真相

経済効果は当初試算をはるかに超えて600億円
選手とファンが一体の〝ハマ野球〟で38年ぶりの快挙

ベイスターズ「日本一」、横浜が燃えた！

▲権藤監督が宙に舞う。就任1年目にして、〝日本一！〟。胴上げは10度にわたった。

平成一〇年のプロ野球日本シリーズは、横浜ベイスターズが西武ライオンズを四勝二敗で圧倒。昭和三五年、智将・三原脩が率いた大洋ホエールズ時代以来、実に三八年ぶり二度目の「日本一」に輝いた。それは権藤博新監督のもと、選手とファンが一体となって戦い抜いた〝ハマ野球〟の快挙であった。

最後はやはり〝大魔神〟一四六キロの直球でV！

「優勝なんて夢のまた夢、まさか現実になるなどとは思ってもいませんでした。僕は今、〝ドリーム・ロス症候群〟にかかっているんです。念願がかなった後の空白、夢がなくなってしまった時の虚脱感に襲われ、これから何を目標に生きていったらよいのか、ただ呆然とするばかり。こんな感覚って、もし僕が国民栄誉賞をもらっても味わえないでしょうね」

喜びを通り越した、なんとも不思議な感慨をこのように語るのは、〝熱烈ベイ党〟として知られる漫画家のやくみつる氏だ。

平成一〇年一〇月二六日、日本シリーズ第六戦の九回表、横浜ベイスターズ「日本一」の瞬間が近づいていた。対西武ライオンズ三勝二敗で迎えたこの試合は、七回まで両チーム無得点。八回裏に駒田徳広（三六）の右中間フェンス直撃の二塁打で貴重な二点をもぎ取ったベイスターズのマウンドには、「大魔神」佐々木主浩（三〇）が上がっていた。

佐々木の額には大粒の汗がにじんでいた。その回、大塚光二に三塁打をあび、

▲シリーズ第6戦、佐々木のフォークが冴えた。球史に残るストッパーだ。

▲第6戦、7回まで0対0。均衡を破ったのは〝満塁男〟駒田主将の一撃だった。

▲シリーズＭＶＰの鈴木尚典（26）。10月18日の第1戦、1回1死から右前適時打で先手を取った。

▶復活したエース、斎藤隆（28）は、第2戦、「タカシコール」の中、109球を投げ抜き、みごと完封。

◀権藤監督（左から二人目）は投手陣からの信頼も厚かった。中継ぎのローテーション制を導入。

日刊ゲンダイ（この頁の5点と左頁）

◎表紙　平成10年10月26日、横浜ベイスターズが38年ぶりに日本一となった。最後の打者をうちとった佐々木に駆け寄る、捕手・谷繁。　藤原重信／産経新聞社

経済効果は当初試算をはるかに超えて600億円
選手とファンが一体の"ハマ野球"で38年ぶりの快挙

ベイスターズ「日本一」、横浜が燃えた!

◀11月3日、「日本一」に輝いたベイスターズの優勝パレードが横浜市で行われ、2.2キロの沿道には40万人ものファンが集まった。

朝日新聞社（左下も）

一死一、三塁から野選で一点を失った。もしかすると彼の脳裏には、同点、そして逆転という最悪のシーンが思いうかんだかもしれない。

しかし、"守護神"として今季五一回もマウンドに立ち、一勝一敗四五セーブ、防御率〇・六四、そして次々とプロ野球のセーブ記録を塗り替えてきた佐々木にはまったく隙がなかった。

代打・金村義明（三五）のバットに、一四六キロの直球が食いこんだ。詰まった打球は二塁手・ローズ（三一）の前にころがり、石井琢朗（二八）から駒田に渡り、ダブル・プレーで試合終了。

横浜スタジアムは歓喜の渦に包まれ、大歓声が夜空に響き渡った。飛び出した選手たちは、権藤博監督（五九）を胴上げ。就任一年目にして一〇回も宙に舞う監督の目には涙が光っていた。

「素晴らしい応援と選手の力に感激しました。西武は、日本シリーズ二年連続出場のチームです。胸を借りるつもりでした。投手ががんばり、打線が援護し、最後は佐々木が抑える。一年の集大成の野球を見せてくれました。ホームで舞えるなんて、本当に夢のようです」

権藤監督は、優勝の味をかみしめながらこう語った。

監督就任一年目での日本シリーズ制覇は史上五人目。管理、データ野球を否定する自在な采配が実を結んだのである。

不況をふっ飛ばす六〇〇億円の効果

ベイスターズの前身である大洋ホエールズが大洋漁業(現・マルハ)によって創設され、ペナントレースに参加したのは昭和二五年。その後一〇年間で最下位七回という、まったくの低迷ぶりだった。

が、昭和三五年に突如、奇跡が起こった。新監督に就任した智将・三原脩（当時・四八歳）は、「三原魔術」と言われた絶妙の選手起用、意表をつく戦術を駆使して、「セリーグのお荷物」を一躍「日本一」の栄光に導いたのだ。

しかし、後が続かなかった。その後の三七年間で、二位が四回、三位が五回だけ。後はBクラスというさんざんな成績で、誰もが優勝など考えもしなかった。

転機のきざしが見えたのは、平成四年一一月、親会社・大洋漁業のマルハへの社名変更にともない、球団名を「横浜ベイスターズ」と変えてからである。

当時、大洋漁業は三〇億円もの赤字を抱え、グループ企業全体の再建策をさぐっていた。それまでのホエールズは、人気球団・ジャイアンツと同じセリーグに所属していたため、売り上げがある程度保証され、親会社のおかげで赤字でも球団は維持できた。

しかし、これからはそうはいかない。中部慶次郎社長の「球団は親会社から完全に独立し、地域に根ざした企業として歩んでほしい」という言葉のもと、新しい球団作りがスタートしたのだ。

「今思えば、日本一のチームになる出発点は、中部社長の英断にあったと思います。なにしろ、横浜という地域に密着しながら球団が一人立ちして自分で食べていかなければなりません。フロントの意識も、徐々に変わりました。自分たちの役割をしっかり踏まえ、本当に力を出し切る人間を評価するという積極性が前面に出てくることで、選手たちのやる気も育っていったのだと思います」

こう語るのは、チームの変化を見つめてきた元球団代表の桜井薫氏（六三）だ。

夏をすぎ、リーグ優勝が射程内に入ると、横浜市民の盛り上がりも最高潮に達していた。九月二〇日にできた横浜駅東口地下街の「ハマの大魔神社」には参拝者が後を絶たず、リーグ優勝時には三〇〇〇人ものファンが集まり、日本シリーズの優勝を祈願。横浜商工会議所の有志からなる「ベイスターズ横浜会」などが、九月一七日の対ジャイアンツ戦から一勝につき一〇万円の報奨金を選手に出すなど、市民総出の応援も後押しする。

権藤監督の采配も冴えわたった。投手出身だけあり、ピッチャーの起用は絶妙そのものだった。先発から抑えの佐々木につなぐ継投策を、頑固なまでに徹底し、投手の役割分担の意識を高める一方で、「放任主義とまではいかないが、選手の自主性にまかせるという哲学」（桜井氏）も功を奏したのだ。

ベイスターズ「日本一」による経済効果も、予想以上のものだった。横浜銀行のシンクタンク「浜銀総合研究所」は、当初試算していた三一六億円を大幅に修正、優勝セールや関連グッズの売り上げなど六〇〇億円の波及効果ありと発表した。

そして優勝から八日後の一一月三日の優勝パレードには、平成六年にジャイアンツが日本一に輝いた時の一七万二〇〇〇人をはるかに超える、四〇万人もの市民が押し寄せ、ともに日本一の感概を分かちあったのである。

▲大魔神社前でリーグ優勝を喜ぶ3000人。シリーズ時には、危険防止のためテレビ放映中止。

スポーツニッポン新聞社

38年前のＶ戦士、かく語る

ＯＢの感慨もひとしおだった。38年前の優勝時、捕手として活躍した土井淳氏（65）は、その喜びをこう語る。

「ついにやってくれた。今年もだめか、という年が何十年も続いたのですが、そのうっぷんを、みごとに晴らしてくれました。市民球団としてファンと一体となったことが大きな力となったのですが、昨年、リーグ2位になった時点で、優勝争いに参加できるチームに成長したという実感がありました。38年前は、三原さんという"中小企業"の社長が、選手をとてもうまくやりくりして優勝したのですが、今回は投打がうまく嚙み合うという"一部上場企業"に成長したのです」

また、当時、"天秤打法"の三番打者としてチームに貢献した、近藤和彦氏（62）の胸中も熱かった。

「とにかく、素晴らしい1年の感激を与えてくれたことに礼を言いたい。一番大きな勝因は、年間を通じて故障者がいなかったことだと思う。監督にとっては方程式をしっかり使えるわけで、一番うれしかったことではなかったでしょうか。佐々木の存在も大きかった。彼に継げば、ということで選手の中に一種の余裕ができたことも大きい。38年間、何人もの監督、コーチ、選手がいましたが、それぞれの思いがこめられた優勝でしたね」

そして横浜ベイスターズは、ＯＢやファンの熱い視線の中、平成11年度に向けて、新たなスタートを切った。

▲昭和35年10月15日、智将・三原監督のもと、「大洋」は「大毎」を下して、初の日本一の座についた。

従業員数七四九七人の大企業が〝突然死〟なぜ大蔵省は「自主廃業」を迫ったのか

山一証券、最後の日！

▲東京・中央区新川の山一証券本社ビル。事業法人に強く「法人の山一」と言われた四大証券のひとつが、かくも簡単に破綻するとは、誰が考えたろう。　文藝春秋

◀戦後最大の破綻で、預けた資産の返還を求める行列が、全国116の本支店で見られた（平成9年12月1日、横浜駅西口）。

平成一〇年三月三一日、国内四位の山一証券が、一〇一年の歴史に幕を閉じた。〝飛ばし〟による約二六〇〇億円もの簿外債務が表面化し、「自主廃業」を決めてから、一二七日後のことだった。まるで突然死のような山一の破綻は、ビッグバンを迎えるためにどうしても避けられない「犠牲」だったのだろうか。

会社そのものが消滅し社員はそれぞれ再出発

「山一　一〇一年の歴史に幕／残る四〇店閉鎖　全社員解雇」

平成一〇年四月一日、「日本経済新聞」は、三月三一日に消滅した山一証券の最後を淡々と報じた。平成九年一一月二二日に「自主廃業」をスクープした「日経」だが、もはや山一問題は終わったと言わんばかりの寂しい報道ぶりだった。

三月三一日、最後まで残った四〇の支店では、別れのセレモニーが行われた。東京・池袋支店では社員約五〇人がビールで乾杯したが、ほとんどの社員は、その後、そそくさと支店を後にした。すでに一月末に一九九〇人が、二月末には二三四五人が山一を去っており、別れの宴も少々食傷気味だったのかもしれない。この日の三一六二人の退職によって、山一の社員は全員解雇となった。

社員たちの再就職は比較的スムーズに進んだ。再就職希望者八二三六人（社員ではない女性外務員を含む）のうち、三月二〇日時点で七〇㌫の再就職が決まっている。山一から約三〇支店を引き継ぐ米・メリルリンチ社は、約二〇〇〇人の採用を決めた。しかし、四〇歳未満の再就職希望者の八二㌫が新たな職を確保したのに対し、五〇歳以上は四九㌫と苦戦を強いられた。

平成一〇年一月に退社し、アイティーエム証券という新会社を設立した西村秀昭氏（四三）は、「平成九年の春頃から守りの姿勢が見え始めたので、山一はビッグバンの中では生き残れないだろうと感じていた。会社がなくなることが決まった時、背中を押されたような気がした。山一の看板を背負って商売する会社人間じゃなかったから、思い切って独立することができたんでしょう」と語る。

西村氏のように独立した人は少なく、多くは同業種への転職をはかった。その中で成功したのは、第一線で活躍していた人材と若手だけであった。圧倒的多数である会社依存型の人材と中高年は、思うような転職ができなかった。それは、会社に唯々諾々とつとめることで成り立ってきた〝日本株式会社〟の終焉を告げることでもあった。

金融危機回避のため「自主廃業」に決まる

「私らが悪いので、社員は悪くありません。一人でも多くの社員が再就職できるように、この場をお借りしてお願いします。ご協力をお願いしますッ」

平成九年一一月二四日、「自主廃業」を決めた山一証券の野沢正平社長（当時・五九歳）は、記者会見の席上でうめくようにこう語り、泣き崩れた。〝飛ばし〟をやって簿外債務を作ったのは経営陣であり、社員に責任はないとの思いが野沢の発言となったのだろう。

その野沢は、八月に行平次雄前会長（当時・六六歳）、三木淳夫前社長（当時・六二歳）の退陣を受けて社長に就任しているが、営業現場が長かったために簿外債務の存在すら知らなかったという。社長就任後、しばらくして約二六〇〇億円もの簿外損失を知った野沢に、もはや打つべき手はなかった。しかも、資金繰りは悪化する一方。一一月三日には三洋証券が破綻し、インターバンク市場（銀行間取引）での調達も不可能になってしまった。三洋証券が借り入れていた約七〇

▶自主廃業発表の平成九年一一月二四日、会見する三塚博蔵相（左）と長野証券局長。無責任なコメントに終始した。

毎日新聞社（上も）

◀記者会見で号泣する野沢正平・山一証券社長（平成9年11月24日、東京証券取引所で）。この模様を米紙は「さよなら、日本株式会社」と報じた。
時事通信社

億円がデフォルト（債務不履行）になったためである。

こうなっては、大蔵省証券局に簿外債務を報告し、再建計画を提示して支援を請うほかはなくなった。一一月一四日、野沢は意を決して長野厖士証券局長（当時・五三歳）を訪ねる。平成三年の証券不祥事、この年の総会屋・小池隆一への利益供与事件に続く不祥事ということで、免許取り消し処分も考えられた。だが、この日の感触は、大蔵省のバックアップが期待できるものであったという。

しかし、事態は一変。一一月一七日、都市銀行としては初めて北海道拓殖銀行が倒産。「拓銀の次は山一」との噂が飛びかった。一一月一九日、長野証券局長は山一に「自主廃業」を迫る。さらに、二一日には米国の格付け会社・ムーディーズに「投資不適格」の烙印を押された。

「山一証券　自主廃業へ／負債三兆円、戦後最大／顧客資産保護へ日銀特融」。一一月二二日、「日経」が山一の「自主廃業」をスクープした。しかし、なぜ三洋証券のように会社更生法ではなく、自主廃業だったのか。選択肢としては会社更生法の適用もあった。ところが、大蔵省証券局が銀行局との合意もないまま三洋証券の会社更生法適用を認めたために、インターバンク内で取り付け騒ぎが起こってしまったのである。大蔵省としては、同じことは繰り返せない。山一には「自主廃業」という道しかなかった。

経済ジャーナリストの財部誠一氏は、「自主廃業というのは、文字どおり自主的に廃業するものですから、大蔵省にとっては最も影響がなく、都合のいい方法でした。なにしろ、自分たちの失態をさらすことも、公的資金投入によって批判されることもありません。しかも、〝銀行への公的資金投入やむなし〟とのムード作りにも利用できます。つまり、大蔵省にとっては最良の、そして、山一にとっては最悪の解決策でした」と言う。

山一にも問題はあった。が、長野証券局長が再三「債務超過ではない」と言っていながら廃業させたのは、正解だったのか。まだ歴史は審判を下していない。

平成一〇年一一月三〇日、社史『山一証券の百年』が刊行された。山一消滅後も編集を続けて刊行にこぎつけた社史編纂委員会の三石泉氏（六一）は、「自主廃業にいたる過程を社内調査報告書という形で収録しました。これで免責されるわけではありませんが、山一社員の責務だと思います」と語る。

もう、山一の歴史に次頁はない。

◀三月三一日、最後まで残った社員で別れの杯。外務員を含めると、社員数は九二七三人だった。
読売新聞社

女たちの肖像

能に花、骨董、書画、仏像〝本物〟を見抜く目を持つ白洲正子ならではの風流

稲葉真弓

平成九年、世に出た白洲正子（八八）の本は、文庫本を含め実に一一冊。そしてこの年、平成一〇年も静かなブームは続き、一〇月現在、四刷を重ねている『花日記』、『日本の神々』など六冊が出版された。

能に花、骨董、書画、仏像……彼女の探究する世界は、いずれも一筋縄ではいかないものばかりである。それがブームを呼んだのは、バブルの悪夢に翻弄された人々の間に、〝本当の豊かさ〟〝日本的なるもの〟への関心が生まれたからだろう。さらに「好きなものをぱくぱく食わずにはいられなかった」という自在な生き方と、年齢を超越したみずみずしい好奇心、遊びに徹した人の〝本物〟を見抜く目に、共感と憧憬が集まったのである。

明治四三年、伯爵・樺山愛輔の次女として生まれた彼女は、父方の祖父に海軍大将の樺山資紀、母方の祖父も海軍大将の川村純義。いずれも鹿児島県出身の〝薩摩隼人〟である。彼女もまた後に、骨董の師・青山二郎に「韋駄天お正」と呼ばれたが、初めて口にした言葉が「バカヤロウ」、気にいらないことがあると「ブッテコロチテマウ」と地団駄を踏むお転婆娘だった。能との出会いはわずか四歳の時だが、梅若実のもとに稽古にかよい、熱中した。

一四歳でアメリカに留学。ものおじしない少女は留学生活を楽しみ、一八歳で帰国。女性として初めて能舞台に立ったのは帰国翌年の昭和三年のこと。翌四年、英字新聞記者の白洲次郎と結婚した。次郎は後に吉田茂元首相の片腕として日本史に残る活躍をした人物だが、正子は彼との間に三児をもうけ、三三歳の時、『お能』を処女出版。書くことにも世界を広げていった。

▲『お能』は、志賀直哉と柳宗悦の勧めによるものだった。
毎日新聞社

骨董に開眼したのは、鶴川村（現・東京都町田市）の藁葺き屋根の農家に移り住んでからである。たまたま、知人で評論家の河上徹太郎が疎開してきたことから、彼を通じて小林秀雄、青山二郎と知り合う。彼らから〝骨董の神髄〟を学んだ彼女は、〝道草の旅〟と称する底なしの骨董道にのめりこむ一方、「女にはできない」と悟って能を断念。美術評論に移行して、『能面』で昭和三八年読売文学賞を受賞する。四〇年、銀座の染色工芸店の経営に乗り出し、多くの染色作家を発掘。その後も旺盛な好奇心のままに山村の寺の取材を重ね、四六年『かくれ里』で再度、読売文学賞を受賞した。

日本美と風流を語れる数少ない一人だったが、平成一〇年一二月二六日、死去した。

勝者・敗者

金メダルと世界新記録！スピードスケートの王者清水宏保の「意識的」強さ

阿部珠樹

この年二月に開かれた長野冬季オリンピック。二月九日は、スピードスケート男子五〇〇㍍の第一日目である。二日間の合計タイムで争われるレースは、一日目の出来が勝敗を大きく左右する。

その大切な一日目のスタートで、清水宏保（二四）は二、三歩つんのめった。優勝候補の筆頭であった清水は、スタートダッシュが最大の武器だった。低い姿勢から飛び出し、一気に加速し、後半、その貯金を守って逃げ切る。それが清水のレース運びだった。ところが、オリンピック本番で、そのスタートダッシュに失敗してしまったのである。

だが、清水の失敗はそれだけだった。いや、オリンピックのレースだけではない。このシーズンのあらゆる局面を通して、清水が犯した失敗は、そのスタートの失敗だけだったと言ってもよい。スタートには失敗した清水だが、それであわてることはなかった。すぐに体勢を立て直し、出場選手中、一番のラップを踏んで一〇〇㍍を通過、後半もよく加速して、初日をトップで終える。二日目は余裕さえ感じさせる滑走で、ほかの選手を寄せつけず、日本人としてスピードスケートで初めてオリンピックの金メダルを獲得する。

「無我夢中」とか「我を忘れて」といったスポーツ選手の常套句ほど、清水から遠いものはない。清水ほどあらゆる局面で「意識的」に滑るスケーターはこれまでいなかったろう。清水のトレーナーによると、彼の最大の特徴は、筋意識性の高さにあるという。筋肉がどう動いているかを鋭敏に察知したり、自在に動かす能力が、人一倍優れているというのである。だから、少々のアクシデントにもあわてることはない。オリンピックの勝利もその成果だった。

オリンピックの一ヵ月半後の三月二八日、清水は、カルガリーの世界種目別選手権で、三四秒八二という世界新記録をたたき出した。シーズン前、オリンピックでの金メダルと、カルガリーでの世界新記録をねらうと明言していた清水は、そのとおりに実現した。これほど「意識的」なアスリートは、日本にはかつていなかった気がする。

朝日新聞社
▲長野市のエムウェーブで優勝を決めた清水。

時事通信社

◀**接待漬け道路公団理事を逮捕(1月18日)**外債発行をめぐる便宜の見返りに、野村証券元副社長らから、総額250万円の接待を受けた疑い。井坂武彦理事(54)は元大蔵官僚で日本興業銀行も接待。

読売新聞社

▲**三角縁神獣鏡32枚出土(1月9日)**天理市の黒塚古墳で発見と、大和古墳群調査委員会が発表。大和王権誕生の地では初めての出土。17日の現地には約1万6000人が行列。

共同通信社

▲**5年8ヵ月ぶり132円台(1月5日)**東京外為市場初日に、「日本売り」。長引く景気低迷や金融不安から、円安の波乱含みのスタート。東証の平均株価も1万5000円割れだった。

共同通信社

▲**また首都圏に大雪(1月15日)**1週間前に続き、東京都心の積雪量は15センチを超え、首都圏のダイヤは空・陸とも大混乱。写真は大雪の中、成人式を迎えた女性たち。世田谷区の区民会館で。

時事通信社　時事通信社

▲**松竹、社長と専務を解任(1月19日)**映像部門の業績不振と無謀な投資から、社内で「天皇」として君臨していた奥山融(写真左)と和由(右)父子を解任。創業家の大谷信義が新社長に就任した。

▶**ローマ法王、キューバを初訪問(1月21日)**カトリック勢力の復権をねらうバチカンと、旧ソ連崩壊後の孤立を脱したいカストロ議長(写真右端)の思惑が一致した。

ロイター/サンテレフォト

平成10年1月

1(木)●天皇杯サッカーで鹿島アントラーズ初優勝。
2(金)●交通事故死、二年連続一万人切ったと警察庁。
3(土)●イラクのバグダッド国連事務所にロケット弾。
4(日)●船木和喜、W杯ジャンプで二六年ぶりの三連勝(6日、日本人初のジャンプ週間総合優勝)。
5(月)●東京外国為替市場、一三二円台で幕開け。
6(火)●NASA、月探査機を二五年ぶりに打ち上げ。
7(水)●郵貯が前年一二月だけで三兆三四一六億円の純増、単月史上最高、と郵政省発表。
8(木)●首都圏で大雪(15日も関東地方に大雪)。
9(金)●ブレア英首相、来日(12日、日英首脳会談)。●奈良・黒塚古墳から三角縁神獣鏡出土を発表。
10(土)●中国・張家口市で大地震、被災住民五四万人。
11(日)●社会人ラグビー、東芝府中が二連覇。
12(月)●プロ野球選手脱税事件、一二選手に執行猶予つきの有罪判決(23日までにほかの八選手にも)。
13(火)●吉井理人投手、米大リーグのメッツと契約。
14(水)●大和証券に詐欺事件の捜査情報を流した現職警部・本垰孝住を収賄容疑で逮捕。
15(木)●インドネシア、IMFと緊縮財政で合意。
16(金)●北朝鮮から里帰り日本人妻第二陣の氏名公表。
17(土)●小中学生に人気の「ハイパーヨーヨー」の二セ物が大量に出まわる、と新聞に。
18(日)●井坂武彦日本道路公団理事、外債発行の便宜をはかった野村証券からの収賄容疑で逮捕。
19(月)●松竹、奥山融社長・奥山和由専務父子を解任。
20(火)●帝京大ラグビー部員五人をカラオケボックスでのOL集団暴行容疑で逮捕。
21(水)●ローマ法王、キューバを初訪問。
22(木)●貿易黒字額、前年比四八・五%増の一〇兆八三億円で、平成四年以来の増加と大蔵省発表。
23(金)●日韓漁業協定終了を日本が韓国に通告(25日、韓国漁船八隻が自主規制中止し日本近海に)。
24(土)●長野冬季五輪選手村、開村。
25(日)●販売会社から顧客情報五三万人分の流出判明。
26(月)●大蔵省検査官二人、検査日程をもらした都銀からの収賄容疑で逮捕(28日、三塚蔵相辞任)。
27(火)●東京・新宿歌舞伎町の会員制しゃぶしゃぶ店・楼蘭の女性従業員を公然猥褻の疑いで逮捕。
28(水)●栃木県黒磯市の中一男子が遅刻を叱られて女性教師を刺殺(2月24日、教護院送致決定)。
29(木)●三和銀行、公務員への接待禁止を決定。
30(金)●日米航空協定、四六年ぶりに平等化で合意。
31(土)●韓国、公務員の五万人削減を発表。

ニュース・ファイル

1998

フォト＋日録で再現する365日

二月、日本で二六年ぶりに開かれた長野冬季五輪が、五個の金メダル獲得に沸いたこの年、高校野球は横浜高校が春夏連覇、プロも横浜ベイスターズが三八年ぶりの日本一に輝いた。一方、証券・銀行業界と大蔵省との構造的腐食は、設立以来初の日銀幹部逮捕におよんだ。

◀**国宝、無惨(9月23日)**平安初期に建造された、高さ16メートルの奈良・室生寺五重塔に、台風7号の強風で倒れた杉の大木があたり、檜皮葺きの屋根が破損。写真は、被害状況を調査する文化庁関係者ら。

共同通信社

共同通信社

◀**ホームレス焼死（2月7日）**午前5時頃、JRの新宿駅西口地下広場の段ボールハウスから出火。たちまち40個を焼き、50人以上もが焼け出され、「夫婦」1組を含む3人が焼死体で見つかった。

▶**中3男子、警察官を刺す（2月2日）**深夜、東京・亀戸を自転車で巡回中のところを襲撃、その場で逮捕された。短銃奪取をねらったもので、凶器は中学生に人気の「バタフライ型ナイフ」（写真）だった。

朝日新聞社

▼**米軍機、ロープウエーのケーブル切断（2月3日）**イタリア北部の観光地で、運航中のゴンドラが墜落、乗客ら20人が死亡。低空飛行訓練が原因で、日本の基地周辺の住民にも、不安を与えた。

▼**新井将敬（50）自殺（2月19日）**自民党改革の旗手が、都内のホテルで首吊り。日興証券との不正株取引容疑で、逮捕直前だった。写真は前日の記者会見で。

読売新聞社

ロイター／サンテレフォト

▼▶**日本、相次ぎ金（2月11日）**長野冬季五輪女子モーグルで里谷多英（21、写真右）が、日本女子では冬季五輪史上初の優勝。15日のスキージャンプのラージヒルでは、ノーマルヒル2位の船木和喜（22、下）が優勝。

朝日新聞社

朝日新聞社

平成10年2月

1（日）●日本相撲協会、第八代理事長に時津風選出。
2（月）●東京・江東区で中三男子が短銃ほしさにナイフで警察官を襲い、現行犯逮捕。
3（火）●伊・カバレーゼで米軍機がロープウエーのケーブルを切断、ゴンドラ落下し乗客全員死亡。
4（水）●三菱電機・三菱地所からの広告料名目の利益供与（商法違反）容疑で総会屋を逮捕。
5（木）●高島屋の顧客五〇万人の情報流出が判明。
6（金）●大田昌秀沖縄県知事、海上基地反対を表明。
7（土）●長野冬季五輪、開幕（～22日、七二カ国・地域から三五〇〇人の選手・役員が参加）。
8（日）●沖縄・名護市長選でヘリ基地賛成派が当選。
9（月）●道路公団の外債発行をめぐる汚職事件で、日本興業銀行の元常務を贈賄容疑で逮捕。
10（火）●清水宏保、長野五輪のスケート五〇〇メートルで日本初の金（11日、里谷多英が女子史上初の金）。
11（水）●韓国・金鍾泌、中国・江沢民と会談し、南北朝鮮、米、中、日、ロの「六カ国宣言案」提示。
12（木）●キューバ、ローマ法王の要請で政治犯ら釈放。
13（金）●インドネシア各地で暴動続発、五人死亡。
14（土）●岡崎朋美、長野五輪のスケート五〇〇メートルで日本女子短距離では初の銅メダル。
15（日）●国連チーム、査察地画定のためイラク入り。
16（月）●台湾で濃霧のため中華航空機が着陸失敗、民家に突っこみ一九六人全員と住民七人死亡。
17（火）●自民党、約二八兆円の旧国鉄債務処理案決定。
18（水）●東邦生命、米・GEグループと生保会社を設立し営業網を移管すると発表。
19（木）●新井将敬代議士、日興証券への利益付け替え要求容疑で逮捕直前、宿泊先のホテルで自殺。
●韓国の「東亜日報」、金大中拉致事件のKCIA犯行を裏づける秘密文書を掲載。
20（金）●政府が国民に説明する責務を明記した情報公開法、政府原案が明らかに（国会提出へ）。
21（土）●宇宙開発事業団、H2ロケット打ち上げ失敗。
22（日）●アナン国連事務総長、イラクと武力行使回避で合意（23日、「査察合意」の調印）。
23（月）●ダイエー、二月期二五〇億円の初赤字と発表。
24（火）●大蔵省、退職金最高は八七八〇万円と報告。
25（水）●韓国で、金大中大統領就任式。
26（木）●高校中退者、過去最高の一一万人余と文部省。
●経営難の社長三人、国立市のホテルで自殺。
27（金）●NTTの番号案内「104」料金値上げ認可。
28（土）●ASEAN蔵相会議、日本に内需拡大を要請。

▼**朱鎔基（69）、中国新首相に（3月17日）**北京で開かれた全人代で、李鵬の後継者に。右派の経済実務家で、開放・改革をひた走る中国を象徴する人事だった。

AP／WWP

共同通信社

▲**加山又造、天龍寺に「雲龍図」（3月3日）**法堂天井に、日本画家の手で幅13メートル近くの天井画が完成。天龍寺は京都五山のひとつ。2年後、開祖・夢窓国師650年忌を迎える。

読売新聞社

▲**長野パラリンピック閉幕（3月14日）**史上最多の32カ国が参加。日本は金12個を含む、ドイツに次ぐ41個のメダルを獲得。写真は、10日間の熱戦を終え、エムウェーブで行われた笑顔の閉会式。

◀**世界初の衛星携帯電話（3月19日）**ドイツのハノーバーで開かれたコンピュータ見本市に、米・モトローラ社が出品。DDIを筆頭株主とする日本イリジウム社が、11月から「試験サービス」開始。

ロイター／サンテレフォト

共同通信社

▲**明石海峡大橋完成（3月21日）**大震災で遅れた工事が終了。本四架橋のひとつ、全長3911メートルの世界一の吊り橋が誕生。写真は、8万人による祝賀の「ブリッジウオーク」。4月5日開通。

▶**最古級の精密な星宿図（3月6日）**7世紀から8世紀の奈良県明日香村・キトラ古墳を、超小型カメラでハイテク探査して発見。中国のこの種のものより500年も古く、白虎や青竜も描かれていた。

共同通信社

平成10年3月

1（日）●横浜でサッカーのダイナスティ杯、開幕（得失点差で日本が三連覇。中国には完敗）。
2（月）●国連安保理、日英共同提案のイラク警告採択。
3（火）●日美クリニックの経営者を四億円脱税で逮捕。
4（水）●行平次雄山一証券前会長ら三人を報告書虚偽記載（粉飾決算）の証券取引法違反容疑で逮捕。
5（木）●大蔵省証券局課長補佐ら、収賄容疑で逮捕。
6（金）●奈良県明日香村のキトラ古墳に星宿図を発見。
7（土）●米艦に撃沈された学童疎開船「対馬丸」の慰霊式、五四年ぶりに鹿児島県悪石島沖で挙行。
8（日）●名古屋国際女子マラソンで高橋尚子が初優勝。
9（月）●埼玉県東松山市の中学校で一年男子同士が喧嘩、ナイフで刺された生徒が死亡。
10（火）●インドネシア、スハルト大統領が七選。
11（水）●日銀課長、収賄容疑で設立以来初の逮捕（松下康雄総裁が辞任、16日、速水優総裁内定）。
12（木）●野党四党が新「民主党」結成合意（31日、代表に菅直人。4月27日、発足し第二党に）。
13（金）●東京地裁、俳優・高知東急に「東急」使用不許可。
14（土）●長野パラリンピック、閉幕（5日～）。
15（日）●橋本・スハルト会談、三〇億円援助を約束。
16（月）●中国全人代、国家主席に江沢民を再選。
17（火）●日航、赤字九七〇億円で会長と社長が退任へ。
18（水）●衆院予算委、「海外飛ばし取引」について大蔵省・松野允彦元証券局長を証人喚問。
19（木）●ヤクルト、金融派生商品で一〇五七億円の損失判明（20日、会長と副社長が引責辞任）。
20（金）●大阪地裁、愛犬家ら五人を筋弛緩剤注射で殺害（平成4年）の上田宜範被告に死刑判決。
21（土）●ロシア外務省、歯舞・色丹返還を定めた日ソ共同宣言（昭和31年）の法的拘束力を認める。
22（日）●カンボジアのラナリット前第一首相に恩赦。
23（月）●「タイタニック」、アカデミー作品賞受賞。
24（火）●神戸地裁、甲山事件の差し戻し審で再び無罪判決（4月6日、神戸地検が大阪高裁に控訴）。
25（水）●千葉県四街道市で中二男子、友人の父親を殺害したと出頭（4月2日、長男も逮捕）。
26（木）●与党三党、景気対策に一六兆円超の方針決定。
27（金）●沖縄県、普天間代替基地の県外移設を要望。
28（土）●スピードスケート世界種目別選手権の五〇〇メートルで、清水宏保が三四秒八二の世界新記録。
29（日）●中山競馬で馬連二一万三三七〇円の重賞新。
30（月）●独・BMWがロールスロイス買収と英紙報道。
31（火）●山一証券、一〇一年の歴史に幕（全店閉鎖）。

「FRIDAY」／馬渕直城

▲ポル・ポト死去（4月15日）タイ国境近くで遺体を確認。1976年からの3年間の首相時代、200万人近い国民を虐殺した真相の究明は困難になった。

PANA通信社

▲メッツ・吉井理人（32）、初勝利（4月5日）日本人として4人目の先発で、パイレーツ戦に7回無失点。大リーグ・デビューを飾った。6月には野茂が同僚に。

▶東海道新幹線の線路のボルト抜かれる（4月30日）午前4時半頃、岐阜県関ケ原町付近で点検中の作業員が発見。レールと枕木を留めるボルトが抜かれていた。

共同通信社

共同通信社

◀「ゴジラ」米国版、全米公開（5月20日）約280億円をつぎこんだ大作が、カナダ・米国の約3300の映画館に登場。ＳＦＸを駆使したエメリッヒ監督の映像は、日本では似て非なるものとの評価。

▶ＨＩＤＥ献花式に長い列（5月7日）自殺した人気ロックグループ「Ｘ　ＪＡＰＡＮ」の元メンバー（33）に、ファンが東京・築地本願寺で別れをおしんだ。

ロイター／サンテレフォト

▲ルワンダ、公開処刑（4月24日）国連の抗議を無視。1994年に少数派・ツチ族ら50万人を虐殺したとして、サッカー場などで死刑囚22人を銃殺。写真は前年、拘束されたフツ族の若者たち。

朝日新聞社

平成10年4月

1（水）●改正外国為替法施行（金融ビッグバン始動）。
2（木）●浦和家裁、東松山市の中学生致死事件の少年審判で児童自立支援施設への送致を決定。
3（金）●ロンドンでアジア欧州首脳会議、開催。
4（土）●北朝鮮が南北会議を提案（11日、北京で三年九ヵ月ぶりに次官級会談。18日、決裂）。
5（日）●全長三九一一メートルの明石海峡大橋、開通。
6（月）●ニューヨーク株式市場、初の九〇〇〇ドル突破。
7（火）●ソニーと米・マイクロソフトが技術提携発表。
8（水）●選抜野球で横浜高、二五年ぶり二度目の優勝。
9（木）●米軍の沖縄県安波訓練場、返還に合意。
10（金）●日銀、過剰接待汚職で九八人を処分。
11（土）●茨城県大子町で祭りの山車の列に飲酒運転のワゴン車が激突。五人死亡、二三人重軽傷。
12（日）●世界食糧計画（ＷＦＰ）事務局長、北朝鮮を視察し北京で会見（食糧不足は依然深刻と）。
13（月）●警察ＯＢの天下りが多い日本交通管制技術社長ら一三人、約一〇億円の脱税容疑で逮捕。
14（火）●前年度倒産の負債総額戦後最悪一五兆円超と。
15（水）●カンボジアのポル・ポト、タイ国境付近で死去。
16（木）●山一証券が社内調査を公表、松野允彦元大蔵省証券局長の「海外飛ばし」示唆が明らかに。
17（金）●東京地裁、家庭内暴力の長男を金属バットで殺した父親に、懲役三年の実刑判決。
18（土）●伊東市で日ロ首脳会談。双方が新提案。
19（日）●中国、天安門事件のリーダー・王丹を釈放。
20（月）●英首相、アラファト議長に中東和平会議提案。
21（火）●旭川地裁、保険料率を明示しない旭川市の国保条例に違憲判決。
22（水）●ドミニカとキューバが三八年ぶり国交正常化。
23（木）●大阪府警、清水行雄東大阪市長ら三人を虚偽の住民登録などの容疑で逮捕。
24（金）●改正公職選挙法が成立、在外邦人の投票確立。
25（土）●ジュビロ磐田の中山雅史、Ｊリーグ新の三試合連続ハットトリック（29日、四試合連続）。
26（日）●橋本内閣の支持率二八%、不支持五一%に。
27（月）●大蔵省、過剰接待で一一二人の処分公表（杉井孝審議官を停職、長野証券局長は減給）。
28（火）●閣議、日米防衛協力の指針（ガイドライン）実施の関連法案、周辺事態法案などを決定。
29（水）●オルブライト米国務長官、訪中（米中間の首脳ホットライン設置の合意書に調印）。
30（木）●東海道新幹線の岐阜県関ケ原町付近で、レールの枕木固定用のボルト二五本が抜かれる。

証言・あの日この日
浅利慶太（64）

1月20日（火）〈代々木に開会式の演出班のトップ十人ほどを集め、進行段取りを綿密に打ち合せ。もうこれで最後になる。あとは皆現場で釘づけ。この次全員が顔を合わせるのは（2月）廿二日閉会式後の、打ち上げになるだろう〉
（浅利慶太「長野オリンピック演出日記」）

劇団四季を率いる演出家・浅利慶太は、この頃「エビータ」の名古屋公演を続けながら、一方では長野オリンピック総合プロデューサーとして多忙な毎日を送っていた。そして、いよいよこの日が最後の打ち合わせとなった。浅利が特に神経を使ったのは開会式だった。浅利は、日本的伝統を象徴する存在として、横綱の土俵入りをクライマックスにもっていく予定だった。しかし1月22日、横綱貴乃花が緊急入院。マスコミは大騒ぎするが、浅利は、代役として横綱曙でもいいと考える。（山崎行太郎）

▶若乃花（27）、晴れ舞台（5月29日）小雨の東京・明治神宮で、第66代横綱の奉納土俵入り。弟・貴乃花の雲竜型に対し、攻めを象徴する不知火型を力強く披露した。写真左は安芸乃島、右・貴闘力。

朝日新聞社

ロイター／サンテレフォト

▶ニセ「ナイキ」トレーナー3万点（4月30日）愛知県警などが、密輸入を水際で阻止。衣料販売業者ら6人を逮捕した。人気の米国ブランドに目をつけ、香港でニセ物を製造させていた。

◀スハルト大統領辞任（5月21日）国民の退陣要求に屈し、32年におよぶ支配に幕。経済危機に端を発した、インドネシアの混迷を解決できなかった。右は側近だったハビビ新大統領。流血の惨事は回避。

共同通信社

共同通信社

▲サッカー籤（スポーツ振興投票）法、成立（5月12日）19歳未満への販売防止策など課題を残したまま、年間1800億円の売り上げを皮算用。3年後の実施決定。

▶インドが地下核実験（5月11日）核軍縮の世界的潮流に逆行、13日にも2回目（写真）を行い、各国の非難をあびた。写真は北西部・ラージャスターン州の現場。

ロイター／サンテレフォト

平成10年5月

1（金）●環境庁、有害化学物質の企業排出量を初調査。
2（土）●EU首脳会議、「ユーロ」一一ヵ国を決定。
3（日）●田村亮子、全日本柔道四八キロ級で八連覇。
4（月）●インドネシア各地で公共料金値上げをきっかけに市民が暴徒化（12日、治安部隊発砲）。
5（火）●全日本バレー女子、六月からチーム名変更のダイエーが優勝（Ｖリーグと二冠）。
6（水）●イタリア南部の豪雨で土石流、三八人死亡。
7（木）●独・ベンツと米・クライスラーが対等合併合意。
●元「Ｘ　ＪＡＰＡＮ」のギタリスト、ＨＩＤＥの東京・築地での葬儀に二万五〇〇〇人参列。
8（金）●岩国市の錦帯橋を禁止されている自動車で渡った三人が文化財保護法違反容疑で逮捕。
9（土）●自民党・野中広務幹事長代理、南京記念館訪問。
10（日）●大相撲夏場所、東京場所では二八年ぶりに「満員御礼」のない初日。
11（月）●インドが二四年ぶり二度目の地下核実験。
12（火）●埼玉医大倫理委、女性患者の性転換手術を承認（10月16日、国内初の手術開始）。
13（水）●野村証券と日本興業銀行、業務提携を発表。
14（木）●政府、円借款凍結など対インド追加制裁決定。
15（金）●英国でバーミンガム・サミット開幕。
16（土）●政府、混乱続くインドネシアからの邦人退去のため、航空会社に増便を要請。
17（日）●韓国の朴セリ、全米女子プロゴルフで初優勝。
18（月）●五億円以上の納税者数、バブル時の一四%に。
19（火）●自家用車の「希望ナンバー制」がスタート。
20（水）●奈良・東大寺の戒壇院千手堂が全焼。
21（木）●インドネシア・スハルト大統領辞任（ハビビ副大統領への全権委譲で三二年の独裁に幕）。
22（金）●福岡高裁那覇支部、嘉手納基地騒音被害訴訟の控訴審で国に約一四億円の賠償命令。
23（土）●北アイルランド住民投票、七一%が和平承認。
24（日）●大関若乃花、連続優勝（初の兄弟横綱誕生へ）。
25（月）●野田実代議士、秘書の選挙違反確定で当選無効（公選法改正後、現職に初の連座制適用）。
26（火）●東京地裁、地下鉄サリン実行犯の林郁夫被告に事件全容の自白を自首と認め無期懲役判決。
27（水）●韓国でゼネスト、四万二〇〇〇人が参加。
28（木）●パキスタン、初の地下核実験（30日にも）。
29（金）●四月の完全失業率、初の四%台に。
30（土）●元大関の小錦、断髪式（年寄佐ノ山に）。
31（日）●アフガニスタンでＭ六・九の大地震、住宅倒壊や土砂崩れで五〇〇〇人超す死者。

毎日新聞社

▲日本、惜敗デビュー(6月14日)フランス南部・ツールーズで行われたサッカーW杯で、歴史的な初出場。初戦の対アルゼンチンに0対1。NHK視聴率が67パーセントを超えるW杯フィーバーに。

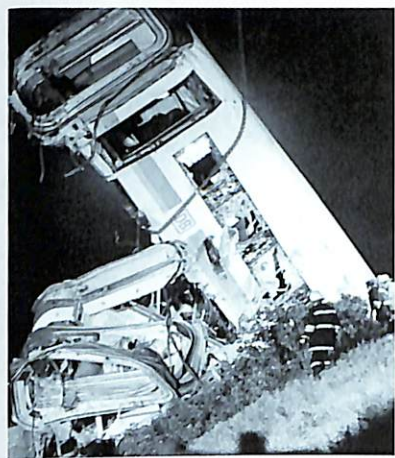
共同通信社

▲金融監督庁、発足(6月22日)大蔵省の金融検査・監督部門を引き継ぎ、不良債権処理を最優先の課題として発足。初代長官に前名古屋高検検事長の日野正晴、約400人の職員の9割は大蔵省出身者。

▶原宿、最後の「ホコ天」(6月28日)周辺の渋滞や違法駐車がひどく、ついに警視庁が断。「タケノコ族」「ホコ天バンド」など、昭和46年以来、数々の風俗を生み出した歩行者天国が、7月から消えた。

共同通信社

▼武豊(29)、ダービー初V(6月7日)東京競馬場の第65回日本ダービーで、1番人気のスペシャルウィークに騎乗、2着に5馬身差をつけて圧勝。父・邦彦と親子2代優勝。史上二人目の8大レース制覇。

日刊スポーツ

ロイター／サンテレフォト

▲ドイツ「新幹線」の悪夢(6月3日)時速200キロで走行中のハンブルク行きICEが、北部のエシェデで脱線、橋脚に激突し死者100人も。原因は車輪の破損。

▶北朝鮮潜水艇を拿捕(6月23日)韓国北東部沖の漁網にかかり、韓国海軍が基地に曳航したが、途中沈没。26日、頭に弾痕のある9遺体を収容。韓国は、工作を目的とした領海侵犯と断定した。

PANA通信社

平成10年6月

1(月)●与党三党体制、社民・さきがけの離脱で解消。
2(火)●サッカー日本代表の岡田武史監督、W杯仏大会の最終メンバー二二人を発表。
3(水)●独北部で高速列車が脱線、死者一〇〇人以上。
4(木)●ドジャース退団の野茂英雄、メッツに移籍。
5(金)●北朝鮮、日本人拉致疑惑について一〇人の行方不明者は見つからずと事実上の拒否回答。
6(土)●長野県下諏訪町の病院で、妻の妹の卵子と夫の精子を体外受精させた出産が判明。
7(日)●武豊騎手、日本ダービーを初制覇。
8(月)●米連邦取引委、インテル社を反トラスト審理。
9(火)●一府一二省庁の中央省庁等改革基本法、成立。
10(水)●サッカーW杯仏大会開幕(チケット入手トラブルで観戦ツアーの一部が中止に)。
11(木)●米国三菱自動車、女性従業員三〇〇人へのセクハラ訴訟で約四九億円の和解金で合意。
12(金)●経企庁、前年度の国内総生産(GDP)が〇・七%減、二三年ぶりのマイナス成長と発表。
13(土)●日本では買えない性的不能治療薬「バイアグラ」の個人輸入がブーム、と新聞に。
●相撲協会の三億五〇〇〇万円申告もれ判明。
14(日)●六日以来紛争中のエチオピアとエリトリア、空爆停止で合意。
15(月)●セルビアのコソボ自治州の紛争に関し、隣接国境地域でNATO軍が航空大演習。
16(火)●速水日銀総裁、不良債権情報の開示拡大要請。
17(水)●日米が円買い・ドル売りの協調介入。
18(木)●福島県警、帝京安積高教諭らへの脅迫・銃撃事件で同校常任理事らを強要未遂容疑で逮捕。
19(金)●ギニアビサウでクーデター未遂から内戦激化。
20(土)●アジアとG7の東京通貨会合を開催。
21(日)●韓国、W杯サッカー苦戦で車範根監督を解任。
22(月)●金融監督庁、発足(初代長官・日野正晴)。
23(火)●韓国軍、漂流中の北朝鮮潜水艇を拿捕。
24(水)●東京地裁、特養ホーム関連の収賄罪に問われた岡光序治被告に懲役二年の実刑判決。
25(木)●クリントン米大統領、中国公式訪問。
26(金)●住友信託、長銀と合併の方向で交渉と発表。
27(土)●産婦人科学会、夫婦外の体外受精医を除名。
28(日)●政府、「受け皿銀行」の損失に三〇兆円の公的資金活用の方針を固める。
29(月)●公取委、ナイキジャパンに価格拘束排除勧告。
30(火)●住宅債権管理機構、回収不能融資紹介と、住友銀行に四八億円賠償請求を東京地裁に提訴。

「現場」を歩く 内幸町

総工費七七〇億円！破綻した長銀本店"T字形"ビルの今後

山本徹美

▲7階分が細くなっているこのビルを支えるため、十数億円もかけて地下の水道管を移設したという。「都市環境を大切に」設計したのは、業界トップクラスの日建設計。 但馬一憲

千代田区
日比谷公園
日比谷通
有楽町駅
日本長期信用銀行
山手線
中央区
外堀通
港区
新橋駅

平成一〇年一〇月二三日、長銀(日本長期信用銀行)の申請を受け、政府は同行の全株式を強制的に買い上げる特別公的管理(一時国有化)を決定。長銀は事実上「破綻」した。

長銀が「信用」を失う端緒は同年六月、月刊誌「現代」の報道から。すぐさま証券市場が反応。額面二〇〇円台だった長銀株は急落、五〇円台に。七月、金融監督庁が検査に入る。長銀の自己査定では、不良債権に相当する第二、第三分類債権は二兆八三六二億円で回収不能な第四分類を零としていたが、同庁は、第四分類に五二〇〇億円を査定、不良債権の総額はなんと四兆六二〇〇億円。

長銀の自己資本は一六〇〇億円。同庁の査定によると長銀の有価証券、不動産などでの含み損は五〇〇〇億円。三四〇〇億円の「債務超過」だった。

長銀は、昭和二七年、長期信用銀行法の施行とともに発足した。高度経済成長を志向する当時の池田勇人蔵相が電力、重工業など基幹産業を支えるために金融債の発行機能を与えたのだ。が、その使命をはたしてからは、金利の自由化やバブル崩壊など環境変化の対応に遅れをとり、役員に一人一〇億円近くの退職金を支給する甘い体質は改善されないでいた。法によって生まれた長銀は、金融再生法の施行とともに消滅したのである。

国営銀行への反応

破綻から一週間後、内幸町にある長銀本店を訪ねてみた。軒高一三〇メートル、地上二一階、地下五階、延べ床面積六万二八二一平方メートルのこの建物は、バブル経済絶頂期の平成二年八月に着工され、バブル崩壊が深刻化した平成五年八月に完成。総工費七七〇億円。平成一四年完成予定の新丸ビルは総工費六五〇億円だが、一平方メートルの単価は四一万四〇〇〇円。それが、長銀ビルは一二二万五七〇〇円と約二・九六倍も単価が高い。

時事通信社

▲平成10年9月10日、参院金融問題・経済活性化特別委員会に参考人で出席した長銀の大野木克信頭取(前列左端)。

T字形の外観は不安定な印象を与えるが、屋上にはアクティブ制振装置が設置してある。強風や地震などでビルが揺れるとコンピュータが即応、二〇〇トンの錘を振動させて揺れを相殺してしまう。たとえ内部が"激震"状態でも、建物だけは微動だにしない構造なのである。

中へ入ってみた。二階へ通じるエスカレーターは停止。ホールロビーに人影はなく、南側ホールは消灯されていて、暗い。受付嬢に来意を告げると、「お名刺を」と、黒い漆塗りの小皿が出された。新聞では、「国有化を嫌って、若手社員は続々と転職」「ビルを外部の企業に売却希望」などと、伝えられている。

「退職者がいるのは事実ですが、その理由や人数に関しては、対外的に公表はしておりません。ビルは将来、売却の予定です」(長銀本店広報室)

帰路、正面玄関の高さ三〇メートルある吹き抜けのガラスボックスを見上げると、突如、カラスの群が飛来し、黒い影を落として去って行った。

ベストセラー

マイナスをプラスに置換！赤瀬川流『老人力』の心強さ

出口の見えない不景気に落ちこむ人々に、元気をもたらすような本が売れた。石原慎太郎と彼の主宰する一橋総合研究所が著した『宣戦布告「NO」と言える日本経済』は、日本経済が危機におちいった原因はアメリカにあるとする、いわば〝告発〟の書であると同時に、元気をなくした人々に向けての〝檄〟ともなる、元気いっぱいの本だった。アメリカは冷戦後の世界を、軍事ならぬ金融戦略で支配しようとしていると喝破し、その足がかりにされている日本と東アジアの国々は、その戦略を見抜いて、アメリカのやり口に反撃を加えるべきだとした。

また、現代の世相をいろいろな角度からとらえてはばっさり斬った、美輪明宏の『人生ノート』は、その歯切れのよさで評判を呼んだ。序文で、多発する少年犯罪にかかわる社会状況として、片寄った食事、無機質なデザインの住空間、メカニックな音に囲まれた環境、拝金主義の社会構造などをあげ、本編でも身近な事柄について語りながら、そのような社会状況を浮きぼりにしていった。

一方、高齢化社会の到来が話題になる中で、高齢であることを逆手にとって高齢者を元気づけるような、おかしな本が人気を呼んだ。ユーモラスでシニカルな見方、語り口で知られる、赤瀬川原平の『老人力』である。たとえば、もの忘れがひどくなると、普通は老いたことを嘆き悲しむが、赤瀬川流では、これは〝老人力〟がついた証拠となる。腰掛ける時の「どっこいしょ」という掛け声も食後の溜息も、老人力の表現とされる。高齢によるマイナスをすべてプラスにおき換えてしまうのだから、高齢者にとっては実に心強い〝理論〟書の登場だった。

●平成10年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	『新・人間革命（1・2・3）』（池田大作／聖教新聞社）
2位	『幸福の革命』（大川隆法／幸福の科学出版）
3位	『ビストロスマップKANTANレシピ』（ビストロスマップ制作委員会／扶桑社）
4位	『大河の一滴』（五木寛之／幻冬舎）
5位	『小さいことにくよくよするな！』（リチャード・カールソン／サンマーク）
6位	『他人をほめる人、けなす人』（F・アルベローニ／草思社）
7位	『ダディ』（郷ひろみ／幻冬舎）
8位	『ループ』（鈴木光司／角川書店）
9位	『ももこの話』（さくらももこ／集英社）
10位	『釈迦の本心』（大川隆法／幸福の科学出版）

全国出版協会出版科学研究所

▲『宣戦布告「NO」と言える日本経済』（光文社、1200円）

▲『人生ノート』（PARCO出版、1600円）

▲『老人力』（筑摩書房、1500円）

スターと名場面

阿部定の心の奥に肉迫する大林宣彦の力作「SADA」

現代社会から失われつつある、人と人との間の〝絆〟をテーマに据えたハードボイルドタッチの映画「絆」（根岸吉太郎監督）がこの年公開された。物語は、紺青色の海をキー・ワードならぬキー・イメージにして、家族の絆と、その絆を断ち切られたもの同士の絆が複雑にからみあいながら展開するが、しばしば挿入される追憶の映像が効果的だった。

青春をテーマにした傑作映画が多い大林宣彦監督が、戦前の代表的な猟奇事件〝阿部定事件〟を題材にした映画「SADA」を製作・公開して、世間を驚かせた。副題に「戯画・阿部定事件」とあるが、映像表現に戯画的なところはあるものの、実在の阿部定がなぜ猟奇事件を起こしたか、その心の奥に真っ向から迫ろうとする作品だった。

ところでこの頃、すでに九年前に亡くなった俳優・松田優作の人気が高まり、彼を蘇らせるさまざまな企画が実現したが、映画「犬、走る DOG RACE」もそのひとつだった。松田優作の原案を、崔洋一監督が撮った作品で、新宿を舞台にした一風変わった刑事ものだった。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「モンタナの風に抱かれて」（ロバート・レッドフォード）／「ゴジラ」（ジャン・レノ）／「始皇帝暗殺」（コン・リー）

松竹提供

▲「SADA」で哀しい人生を演じた黒木瞳（上）と、相手役の片岡鶴太郎（下）。

▶「絆」でクールな役柄を演じた役所広司（右）と、刑事役の渡辺謙（左）。

東宝提供

▼「犬、走る」で走る、刑事役を熱演した岸谷五朗（左）。

東映ビデオ提供

モノ語り'98

電子機器の機能がどんどん多彩に！「speax31」「ポケットボード」「育成散歩計 てくてくエンジェル」

◀**歩くと育つ電子ペット** 大流行した育成型ゲームに歩数計を組み合わせた「育成散歩計 てくてくエンジェル」が、前年末にハドソンから発売され、この年大ヒットした。設定した歩数ノルマを達成するとペットは順調に育ち、逆に達成できないと病気になったり、書き置きを残して家出してしまうというもの。飽きない健康グッズと評判になった。2480円（税別価格）。

▶**さらに高機能になった電話機** この年の2月から、電話をかけてきた相手の番号が表示される「ナンバー・ディスプレイサービス」が開始され、これに対応する電話機が多種発売された。NECが前年に発売したファクシミリつき電話機「speax31」シリーズは、大型のディスプレイのほか、ハンドスキャナーを備えたファクシミリ、デジタル録音の留守番電話など、多彩な機能で人気を呼んだ。オープン価格。

▲**のどごしすっきり低価格** 2月にキリンビールから発売された「麒麟 淡麗〈生〉」は、発芽する前の大麦を使用した発泡酒で、発売からわずか1ヵ月間で1億缶（350ミリリットル缶換算）と爆発的に売れた。350ミリリットル缶145円、500ミリリットル缶195円（それぞれ税別）という低価格も、ヒットの要因だった。

▼**ここでもワールドカップ・フィーバー** サッカーのワールドカップ・フランス大会人気は、「関連グッズ」にもおよんだ。トリコロールカラーのキャラクター「フティックス」のぬいぐるみや、各種応援グッズなどが、オフィシャルショップ・エスパスオフィシエールで発売され、サッカーファンでにぎわった。価格は税別で、ぬいぐるみが980〜3000円、ネクタイが4800円、キャップが2800円、マフラーが3500円など。

日本スポーツビジョン提供

◀**天童よしみがグッズになった** この年、芸能人のキャラクター人形が流行したが、その火つけ役となったのが、テイチクから発売された演歌歌手・天童よしみのキーホルダーだった。コンサート会場で販売され人気を呼んだのを皮切りに、若い女性の間で「魔除け」としてヒット。半年間で10万個売れた。価格は税別で580円。

◀**急に売れだした清涼飲料水** 平成8年に日本たばこ産業から売り出されていた「桃の天然水」が、この年のテレビCMをきっかけに大ブレイク。「透明だけど、飲んだら分かる」のコピーどおり、天然水に白桃の透明果汁を組み合わせた無着色の清涼飲料水で、あっさりしたおいしさが人気を呼んだ。写真の500ミリリットル入りで140円（税別）。

▶**電子メールを楽しめるモバイル** 前年末にNTT移動通信網から発売されたモバイルツール「ポケットボード」が、この年、若い女性の間で大ヒットした。ドコモの携帯電話に接続するだけで、ショートメールやポケベルへの送信のほか、短い文なら10円で送受信可能の「10円メール」が利用できた。税別で1万2800円と価格も手頃だった。

決定的瞬間

「夢の七〇本塁打」実現！ “飛ばし屋”マグワイアが奇跡を起こした最終打席

一九九八年九月二七日、米大リーグ、カージナルスのマーク・マグワイア一塁手（三四）は、今季最終戦を迎えていた。対戦相手はエクスポズ。カージナルスの本拠地、ミズーリ州・セントルイスのブッシュ・スタジアムには、四万六一一〇人の観衆が詰めかけていた。

観衆の最大の関心事は、三七年ぶりに、本塁打の世界記録を塗り替え、六八本塁打を放っていたマグワイアである。「夢の七〇本塁打」を実現できるか、固唾を呑んで、その打席を見守った。

三打席目、マグワイアが観衆の期待にこたえるかのように、大きな弧を描く六九本目の本塁打を放つ。「もう一本」。興奮が最高潮に達した最終打席、彼の放った打球は、突き刺さるようなライナーで左翼スタンドへ飛びこんだ。

奇跡は起こった。観衆の叫びがやまない中、外野の電光掲示板には“The Legend of MARK McGWIRE”という文字が浮かび上がる。この日、マグワイアは「伝説の人」となった。

マグワイアは九月五日、ブッシュ・スタジアムで行われたレッズ戦の第一打席で、カウント〇―二から、左腕・レイエスの内角直球を左翼ポール脇にたたきこみ、ベーブ・ルースが一九二七年に打ち立てた六〇本塁打記録に並んだ。

その二日後の九月七日。ブッシュ・スタジアムで行われたカブス戦の第一打席。マグワイアはライバルのサミー・ソーサ（二九＝シカゴ・カブス）の目の前で六一本目を打ち、ロジャー・マリス（当時・二七歳＝ヤンキース）が一九六一年に樹立した世界新記録の六一本に並んだ。そして、その翌日、同じブッシュ・スタジアムで、六二号本塁打を放ち、とうとう記録を塗り替えたのである。

ファンやマスコミの関心は、「夢の七〇本塁打」を実現できるかどうか、そして、ソーサ選手とのホームラン王争いに移っていた。

マグワイアがベーブ・ルースに並んだ日、ソーサは、ピッツバーグでのパイレーツ戦で、三試合連続の五八号本塁打を放って二本差でマグワイアを猛追していた。そして、九月一三日のブリューワーズ戦で、ソーサは場外ホームランを連発し、とうとうマグワイアの六二本に並んだのである。その後、両者は互いに一歩も譲らずホームランを量産するが、二五日、ソーサは六六号を放ち、逆にマグワイアを一歩リードした。

しかし、ソーサがリードを保ったのはわずか四五分間だった。この日、マグワイアはソーサに追いつくと、以後の一一打席で四本塁打と引き離す。ソーサの追撃もそこまでだった。

この年のマグワイアは、単純計算で、なんと約二・二試合に一本のペースでホームランを放ったことになる。ちなみに、マグワイアと本塁打王を争ったソーサは約二・五試合に一本のペースである。

これらがいかに驚異的なペースかは、今季五〇本塁打を記録したパドレスのグレッグ・ボーン外野手が「自分がいくら打っても騒がれないほど、二人がなしとげたことはすごい」と語ったことにも表れている。

マグワイアは数試合に一度のペースで休みをとる。ダブル・ヘッダーの時は、一試合はフル出場するが、もう一試合は休むことも多い。これは、怪我（けが）などで不振にあえいだ一九九四、九五年の轍（てつ）を踏まないように気遣ってのことだと言われている。このため、ソーサ選手より約一〇〇打席も少ない。にもかかわらず、本塁打王争いに競り勝ち、七〇本塁打を達成した。もしフル出場し、量産ペースを維持していたら、九月一日時点で七〇本を超えただろうとも言われている。

ともかく、七〇本塁打は、簡単には破れない夢の目標になった。しかし、当の本人はいたって冷静に、自分の記録を受けとめていた。

「この記録もいつか破られるだろう。いつ破られるかって？　もちろん、僕が生きているうちさ」

マグワイアは試合後の記者会見で、質問にこうこたえたという。

▶衝撃の70号を打った直後のマグワイア。彼は最後まで〝怪物〟だった。そして、ファンは皆、この記録を塗り替えるのは彼しかいないと思った。

Doug Pensinger／ALL SPORT／AFLO PHOTO AGENCY

▼ソーサの66号ホームラン。南米・ドミニカ出身ということで、一時、リーグ・マスコミから差別されたが、この年のナリーグMVPは、マグワイアではなく、ソーサの頭上に輝いた。

Vincent Laforet／ALL SPORT／AFLO PHOTO AGENCY

美の出会い

どこかおかしい名画が並ぶ「モナ・リザ」になりきった森村泰昌の「空装美術館」！

平成一〇年四月二五日から六月七日まで、東京・江東区にある東京都現代美術館で、ゴッホやマネ、ベラスケス、レンブラント、写楽（しゃらく）らの美術史上有名な名画が、一堂に会する大展覧会が開かれた。

と言ってもどこかおかしい。ゴッホの「ひまわり」には、花の中に歌っている人間の顔が描かれ、マネの「笛吹き」の少年のズボンはずり落ちている。よく見ると、見慣れた名画の、あちこちに〝いたずら〟がなされているのだ。観客をあきれさせたり、驚かせたり、嘆かせたり、悩ませたり、笑わせたりするこれらの作品は一体、何なのだろう。

現代美術家・森村泰昌（やすまさ）（四六）が扮装してモナ・リザやゴッホの自画像になりきり、写真やコンピュータを駆使して制作した「美術史シリーズ」のセルフポートレートの一群なのである。森村は、フランスの作家で文化相をつとめたことのあるアンドレ・マルローの著作『空想の美術館』にちなんで、みずから美術作品の主人公になり、空想的によそおうということから「空装美術館」と命名した。

観客数は、現代作家の展覧会では最高の三万六〇〇〇人を数えた。一般に入場者の少ない現代美術の作家の個展としては、快挙と言えるだろう。

初日の四月二五日、森村は一五人のボランティアとともに、「モナ・リザ東京に現る」と印刷された「号外」を新宿や渋谷、銀座で手渡した。用意した八〇〇〇枚は、たちどころになくなったそうだ。

展覧会の最後に展示されたのは、新作の「はじまりとしてのモナ・リザ」「身ごもるモナ・リザ」「第三のモナ・リザ」の三点だった。絵画史上で最も知名度の高いレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」は、森村に見つめられ、解釈され、批評され、解体され、再構築され、巨大なポートレートとなった。

森村は「モナ・リザ」をよそおうにあたって、ルーブル美術館蔵の原画のほか、レオナルド没後三〇年頃に模写されたプラド美術館蔵の作品やラファエロが「モナ・リザ」を意識して描いた「マッダレーナ・ドーニの肖像」などをもとに、モナ・リザの衣装やメークまで調べあげた。

森村泰昌（左頁の三点も）

▲「嘆きの天使」に出演したマレーネ・ディートリッヒに扮した、セルフポートレート「ディートリッヒとしての私」。1994年。

さらにレオナルドの自画像説、モナ・リザの妊娠説などを推理して、制作にあたったのである。

異色な展覧会のうえに、さらに異色だったのは、展示会場にモリムラ版「プリクラ」が登場したことである。

「森村さんは、サービス精神の旺盛な人です。『プリクラ』を登場させたのも、どこか自作に通じるものがあったのでしょう。『空装美術館』で絵画の歴史を体験した後で、観客が絵画に変身して、お土産に持って帰ってもらおうというコンセプトで、『プリクラ』のコーナーを設置したのです」と東京都現代美術館の学芸員・石田哲朗氏は解説する。

熊谷武二

▲ベラスケスの「ラス・メニーナス」に扮した作品、「美術史の娘（王女B）」とともに撮影した森村泰昌。

▲「身ごもるモナ・リザ」。レオナルドの「モナ・リザ」には、目と鼻の間に腫れ物ができている。これは妊婦の体調が悪い時に出るものだという、モリ・リザ妊婦説がある。

▲「第三のモナ・リザ」。胎児は、森村自身の体のパーツをコンピュータで組み合わせて作ったものである。森村は「私が身ごもっているのは私自身である」と記している。

◀「はじまりとしてのモナ・リザ」。1998年。カンバスにインクジェット・プリント、290×200センチ。3点とも、制作年代、制作方法、サイズは同じ。1ヵ所だけメークされない眼球が、不気味に感じられる。

モナ・リザやゴッホの「ひまわり」、写楽の役者絵などに変身して、鑑賞者になり当事者になるといった、かつてない美術館体験ができる「モリクラ」の前に、長蛇の列ができた。

森村が「美術史シリーズ」を始めたのは、昭和六〇年のことである。みずからゴッホの「包帯をしてパイプをくわえた自画像」に扮して、大型カメラのカラー写真におさまり、「肖像（ゴッホ）」として制作し、一躍有名になった。この時は粘土で衣装を作り、絵の具を塗り、これを身につけて、ベニヤ板に描いた背景の前に座り、写真に撮ったのである。撮影中に髪をおさえるゴムバンドで、血管が強くしめられたため、頭痛がして、目もかすみ、ついに失神したという。ここまで熱中することについて、森村は自著『芸術家Mのできるまで』（筑摩書房刊）で次のように記している。

「一生懸命の行為が、単になにかを実現するための手段であるばかりでなく、誰かの心を揺り動かして、芸術の最大の目的である感動に変異することがある」

以後、森村は昭和六三年、ベネチア・ビエンナーレに出品して、海外で高い評価を獲得。各国の美術館から作品を求められ、現代美術の代表的作家となる。

平成六年にはマドンナやマイケル・ジャクソンをテーマにした「サイコボーグ・シリーズ」、ついでマリリン・モンローやマレーネ・ディートリッヒ、藤純子らに扮する「女優シリーズ」を制作。さらにライブ・パフォーマンスにも乗り出して、その過激さはいちだんとエスカレートしている。

20世紀博物館

地質標本館

海底模型や立体地震マップなどで実感する"地球は生きている！"

茨城・つくば市

桑原茂夫

この「地質標本館」は、筑波研究学園都市にある「通産省工業技術院地質調査所」という研究機関の附属施設なのだが、実にミュージアムらしいミュージアムである。未知の世界を詰めこんだボックスがたくさんあって、次々にそれを開いてゆく楽しさを味わわせてくれるのだ。それもそのはずで、このミュージアムの基本を支えている"地質学"は、地球の表面から深部まで、あらゆる"モノ"や事柄、現象を対象にしているのである。

宝石や化石を含むさまざまな石はもちろんのこと、深海の底に転がる、コバルトやニッケルなどの貴重な金属資源の集合体であるマンガンノジュールや、同じような金属資源を溶かしこんだチムニーなどの"モノ"の展示は、地上のみならず、地底や海底のダイナミックな動きを想像させ、刺激的である。

また、地球が生きていることを感じさせる展示には、プレートの動きを示す大きな海底模型がある。海底の一定の地域から、地球の芯で燃えるマグマが吹き出し、これが冷やされてプレートとなり、じわじわと海底を動かし、地底を動かしていく。プレートによる大陸の移動は、たった今も行われているのである。

そして、このプレートの一部が太平洋の海底となって、日本列島やユーラシア大陸を支えるプレートの下にもぐりこんでいき、やがて大地を揺るがす大地震を引き起こす。その構造もさることながら、大地の割れ目とでも言うべき活断層が縦横に走る日本列島の地質を、ここに展示された模型などで見ると、平成七年の「阪神・淡路大震災」を待つまでもなく、日本列島のどこででも大地震が起こりうることを実感させられるのである。

▶日本列島の地質を示した模型。列島の南部を東西に走る中央構造線など、プレートが押し寄せてきた様子がわかる。 楠田守

▼館の入り口。石の顕微鏡写真や宝石の標本などの脇に、リアルタイムの地震情報を流すテレビモニターがある。

天井には、よく見ると日本列島が描かれていて、あちこちから棒状のものがぶら下がっている。ここ六十数年間に起こった大きな地震の震源地を示したもので、ぶら下がっている棒の長さが震源の深さを表す、立体地震マップなのだ。

さらに、入り口近くのテレビモニターには、ほぼリアルタイムの地震情報が映し出されている。アメリカ地質調査所や日本の防災科学技術研究所からの、日本列島規模と地球規模における、一週間単位の最新地震情報が刻々と流されているのである。

▲日本列島を地下から見た震源マップ。マグニチュード7.5以上の地震の震源地が点灯球で示され、8.0以上の歴史的大地震の震源は白色点灯球で示されている。

要するにこのミュージアムは、とてつもなく長い時間をさかのぼりながら、今をとらえ、将来を予測する、地質学の"現場"にほかならないのである。そもそもこの標本館は、明治一五年に設けられた、日本で最も古い、国の研究機関である通産省工業技術院地質調査所が、調査の過程で集めた標本を分類・展示するところから始まったミュージアムであり、つねにフレッシュな情報が集まってきた場所なのである。

地震の怖さと地球の奥深さを同時に感じることのできる、ここはまさしくワンダーランドであった。

●地質標本館
茨城県つくば市東一－一－三
☎〇二九八－五四－三七五〇
JR常磐線荒川沖駅からバス、並木二丁目下車、徒歩五分
開館時間＝九時半～一六時半
休館日＝第一、第三、第五土曜日、日曜日、祝日、年末年始
入館料＝無料

▲太平洋の海底模型。左手前はオーストラリア。その上、日本に近いフィリピンの横に、プレートが落ちこむ海溝が、えぐれて見える。

和歌山「砒素カレー」で4人、長野「青酸ウーロン茶」で一人死亡

続発！「毒物混入」魔の連鎖反応

▲日本中を震えあがらせた、和歌山「砒素カレー事件」の夏祭り会場。手前の鍋に毒物が入れられた。 産経新聞社

平成一〇年七月、和歌山市の住宅街の夏祭り会場で出されたカレーに毒物が混入され、自治会長ら四人が死亡、六〇人余りが病院に運ばれた。不特定多数をねらった無差別殺人とも目されているが、動機は判然としない。これをきっかけに、各地で模倣犯が相次いだ。折からの不況とあいまって、日本列島はいいしれぬ不安におおいつくされたのである。

うずくまる人、倒れる人 夏祭りが一転"地獄絵"に

「あかん、みんな、もう食べたらあかんでぇ。食べたら死ぬでぇ」

カラオケや屋台の模擬店でにぎわう町内の夏祭りの喧噪が、一瞬にしてうめき声と悲痛な叫び声に変わった。

平成一〇年七月二五日午後六時すぎ、和歌山市園部の園部第一四自治会の夏祭り会場で出されたカレーを食べた人たち

▲静かな住宅街だった和歌山市園部は、事件の日以降、取材合戦の騒ぎに巻きこまれる。写真は7月26日の午後10時頃撮影されたもの。 共同通信社

▶青酸カリ入りウーロン茶をおかれた長野県須坂市のスーパー「サン」に隣接する青果業者は、販売を自粛、売れ残った野菜を廃棄処分とした（9月5日）。 共同通信社（下とも）

▼「サン」は警備員が警戒する中、8日に営業を再開した。

が、その直後、激しい嘔吐を繰り返した。中には、手足を痙攣させている人もいた。午後七時すぎに、一台の救急車が患者たちを病院に運びこんだが、同自治会の谷中孝寿会長（六四）、田中孝昭副会長（五三）、高校一年生・鳥居幸さん（一六）、小学校四年生の林大貫君（一〇）の四人が死亡、六三人が治療を受けた。事件はその後、林真須美容疑者（三七）が別件で逮捕されたが、全面的に否認。一二月二九日、この件で起訴されたが、全容は今も未解明である。

この事件には際立った特徴があった。ひとつは死亡原因が二転三転したことである。当初、たんなる集団食中毒から「青酸中毒」と変わり、その後、残りのカレーや遺体から致死量に達する砒素が検出されて、砒素中毒事件と変わった。

そのため、被害者の治療も、後手にまわっていた。青酸中毒に特有な急激な呼吸障害が見られず、逆に砒素中毒の特徴である嘔吐、手足のしびれ、赤血球・白血球・血小板の減少などが現れていたため、治療現場では青酸中毒説に疑問を呈する声もあった。しかし、各医療機関とも砒素の解毒治療はまったく行わなかった。日本の医療機関の、毒物治療に対する経験の浅さが露呈した事件でもあった。

「ニセ薬」「毒飲料」続出する模倣犯

もうひとつの特徴は、模倣、便乗事件が相次いだことだ。

まず和歌山の事件からほぼ二週間がすぎた八月一〇日、新潟市の木材の防腐剤メーカー「ザイエンス」新潟支社で、ポットのお湯を使ってお茶やコーヒーを飲んだ一〇人が吐き気や手足のしびれを感じて病院に運ばれたが、いずれも死にはいたらなかった。鑑定の結果、毒物はアジ化ナトリウムと判明したが、犯人は捕まっていない。

さらに八月二六日には、東京・港区の公立中学校の生徒や教師の自宅二〇軒に、「やせ薬」をよそおった瓶が郵送された。添付の「説明書」には、「刺激的な味だが、開封後、一気に飲めば美しいボディーになる」と書かれていた。瓶の中には、クレゾールを薄めた液体が入っていた。これを飲んだ同中学三年生の男子（一四）が、意識が薄れ、吐き気や喉の痛みで病院に収容されたが、命に別状はなかった。九月八日、同じ中学の一五歳の女子生徒が発送したことが判明した。調べに対し女子生徒は、「強い刺激臭があるので、まさか飲むとは思わなかった。本当に悪いことをした」と供述した。

次いで、八月三一日午前七時半頃、長野県小布施町で、中沢一十郎さん（五八）が、隣の須坂市のスーパーで買った缶入りウーロン茶を飲んだ直後に倒れ、病院に運ばれたが午前九時一六分に死亡した。ウーロン茶からは青酸化合物が検出された。さらに九月一日には同じスーパーで、致死量を大幅に超えた青酸カリを混入した缶入りウーロン茶が発見された。底に穴を開け青酸化合物を入れた手口が似ていることから、同一犯の疑いが強いが、これまた犯人は判明していない。

▲ポットに毒物が入れられた、「ザイエンス」新潟支社を捜索する捜査員（八月一二日）。

そしてついには、複数のアカデミズムの世界にまで飛び火した。三重大学、愛知県の岡崎国立共同研究機構でも、ポットにアジ化ナトリウムが混入されたのである。

これらは、一連の便乗事件が国民のあらゆる階層によって演じられたことを示唆している。

こうした中で、スーパーやコンビニエンスストアでは、缶入り清涼飲料水の販売を一時中止したり、ガードマンの巡回をふやすなど、昭和五九年からの「グリコ・森永事件」以来の厳戒態勢を敷いた。

一連の事件に便乗した"連鎖反応"的な狂言事件も起こった。九月一〇日、大阪の男性が「コンビニで買ったジュースを飲んだら、喉がひりひりした」と届け出たが、見舞金ほしさの自作自演とわかり逮捕されたのをはじめとして、山梨県の姉妹は、紅茶を飲んだ後、吐き気を訴えたが、実は姉が「父親を困らせたいため」の狂言とわかった事件などが続いた。また、「商品に青酸を入れた」とスーパーを脅迫する事件も数件発生し、毒物騒動が連日のように報道された。

さらに、過剰反応の一種である「過換気症候群」などによって、異常のないものを飲食して異常を訴え、全国で警察や救急車が出動する事件が九月上旬の一〇日間に五〇〇件を超えた。

こうした点について、犯罪評論を手がけている朝倉喬司氏は次のように言う。

「『グリコ・森永事件』の時にも一〇〇件を超える模倣犯がありました。それは企業から金を脅し取ろうという明確な動機の模倣だったのに対し、本件は動機が不明確で、したがってターゲットもはっきりしません。しかも、いたずらと犯罪の区別すらできていないものまで生まれました。方向性を見失っている社会へのぼんやりした悪意が、その底にひそんでいるのではないでしょうか」

また、犯罪心理学の福島章上智大学教授は、「模倣や後追い自体は、昔からよくあることです。江戸時代の瓦版が、『道行き』を報じると心中事件が相次ぎました。現代でも、昭和四八年のコインロッカーベビーの続出、五四年の一連の通り魔事件、六一年のタレント・岡田有希子の自殺に端を発した後追い自殺の続発などがその例です。ただ、現代の特徴は、流行のサイクルが短いことです。『人の噂も七五日』と言いますが、今ではほぼ二ヵ月間でぴたりと終わっています。平成一〇年一月の、黒磯市の女性教師刺殺事件後のバタフライナイフ騒動もそうでした。問題は、たとえば、アジ化ナトリウムなら死にはいたらないという学習効果が広まり、しかも毒物は捕まりにくいと思われていることでしょう」と指摘するのである。

▲八月二六日、クレゾール入り「やせ薬」につけられた「説明書」。
読売新聞社

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

毎日新聞社

共同通信社

◀住友銀行の口頭弁論（7月22日）住宅金融債権管理機構（中坊公平社長）が、旧住専会社の破綻は、住友の劣悪な融資紹介のためとし、48億円の賠償提訴。

共同通信社（2点とも）

▲▶「バイアグラ」で日本初の死者（7月15日）米国で3月に発売後、日本でも服用者が急増。性的不能治療効果の半面、副作用も強く、厚生省は未承認薬ながら、注意を喚起した。

▶ＰＫＯの秋野豊さんら4人、射殺（7月21日）中央アジア・タジキスタンで、停戦監視団要員として偵察中、反政府過激派に襲撃された。写真は遺体収容。

AP／WWP

◀日本初の火星探査機打ち上げ（7月4日）宇宙研がM5ロケットに「のぞみ」を搭載。翌年10月、火星に接近し、地球に観測データなどを送信する予定。

▶双子の体細胞クローン牛誕生（7月5日）石川県と近畿大学が世界初の出産に成功。肉質や乳量に優れた牛の大量生産にめど。倫理構築が急務となった。

共同通信社

▲メリルリンチ長野支店、スタート（7月1日）米証券最大手が第1号店を開店。旧山一証券の店舗・社員を継承、本年中に、全国33店舗を展開する計画。

共同通信社

平成10年7月

1（水）●東京高裁、「ロス疑惑」一美さん銃撃事件の三浦和義被告に無罪判決（10日、検察上告）。
2（木）●政府、不良債権に「ブリッジバンク」導入決定。
3（金）●岐阜龍谷会前理事長ら、特養建設の補助金約三億八〇〇〇万円の不正受給容疑で逮捕。
4（土）●日本初の火星探査機プラネットＢ「のぞみ」、鹿児島宇宙空間観測所から打ち上げ成功。
5（日）●近畿大学と石川畜産センターの研究グループ、世界初の成体体細胞「クローン牛」出産に成功。
6（月）●坂本弁護士一家殺害事件などの実行犯として、岡崎一明被告にオウム裁判で初の死刑を求刑。
7（火）●英独の証券取引所、統一市場へ提携を発表。
8（水）●埼玉県宮代町の夫婦殺害で富士銀行員を逮捕。
9（木）●下稲葉耕吉法相、法制審に少年法改正を諮問。
10（金）●政府、選挙を前に四兆円恒久減税を決める。
11（土）●参院選の不在者投票数は四七〇万人と自治省。
12（日）●参院選、自民四五議席で惨敗（首相交替へ）。
●Ｗ杯サッカー、開催国のフランスが初優勝。
13（月）●ロシア・キリエンコ首相来日（八億ドル融資へ）。
14（火）●趙治勲、本因坊戦で前人未到の一〇連覇。
15（水）●バイアグラ使用で国内初の死亡者が判明。
16（木）●直木賞に車谷長吉の『赤目四十八瀧心中未遂』。
17（金）●パプアニューギニア北西部に津波、一〇村落壊滅で死者二一三四人、行方不明三三五人。
18（土）●平成八年度国民医療費が過去最高の二八兆五二一〇億円で一人平均二二万円強、と厚生省。
19（日）●共産党の不破哲三と志位和夫、中国訪問（21日、江沢民総書記と三二年ぶりの首脳会談）。
20（月）●米下院、金融再編を求める対日決議案を可決。
21（火）●秋野豊政務官ら四人のＰＫＯ監視団要員、中央アジアのタジキスタンで射殺される。
22（水）●東大医科研の癌への遺伝子治療申請が初承認。
23（木）●運輸審、定期航空路線への三五年ぶりの新規参入にあたるスカイマークを認可答申。
24（金）●米議事堂に男が侵入し銃撃戦、警官二人死亡。
25（土）●和歌山市園部の夏祭りで毒物混入カレー事件。
26（日）●両国通信最大手の英・ＢＴと米・ＡＴ＆Ｔが売上高一〇〇億ドル規模の合弁会社設立を発表。
27（月）●ＡＳＥＡＮ地域フォーラム閣僚会議を開催。
28（火）●学術審、クローン技術の「ヒト応用」を禁止。
29（水）●西淀川公害訴訟、国と道路公団が車線削減などの環境対策を約束し、二〇年ぶりに和解。
30（木）●小渕内閣発足（参院は菅直人を首班指名）。
31（金）●巨人のガルベス、判定不服で審判に暴行、退場。

共同通信社

▲地下水汚染問題で住民の無料健康診断（8月12日）東芝愛知工場地下水から、高濃度のトリクロロエチレンが検出された事件にからみ、名古屋市が実施。

◀長江、大洪水（8月9日）6月以降の大雨により、各地で堤防が決壊、死者3656人。水田の冠水など、経済的損失は3兆円近い。写真は江西省九江市で。

共同通信社

▶「スカイマーク」お目見え（8月21日）35年ぶりの国内便新規参入を9月に控え、米国からボーイング767が到着。羽田－福岡間を、従来の半額1万3700円とした格安運賃が売りものだった。

共同通信社

ロイター／サンテレフォト

▲「タイタニック」浮上（8月10日）1912年、大西洋北部で沈没した豪華客船の一部が、86年ぶりに出現。右舷1等船室で、深さ4キロの海底に眠っていた。

▶クリントン米大統領、「不適切な関係」認める（8月17日）1月以来、元実習生との「性的関係」を否定していた。写真は1996年再選直後の二人の抱擁。

AP／WWP

▶松坂大輔、決勝でノーヒットノーラン（8月22日）全国高校野球夏の大会で、京都成章高を相手に戦後初めての快挙。横浜高は、春に続く連覇を達成。松坂は春夏11試合で97奪三振。「怪物」江川を上回る豪腕ぶりを見せた。

朝日新聞社

平成10年8月

1（土）●米商務省、四～六月期ＧＤＰ成長率が一・四％で、一～三月期から七五％ダウンと発表。
2（日）●和歌山県警、毒物カレーから砒素検出と発表。
3（月）●東京国税局、ホテルニュージャパンの滞納法人税二三三〇億円の徴収を断念と判明。
4（火）●宮沢蔵相、自民税調と四兆円所得減税に合意。
5（水）●横浜地裁、川崎公害訴訟で国・公団に賠償命令。
6（木）●大卒就職率六五・六％で戦後最低と文部省。
7（金）●ケニアとタンザニアの米大使館を標的に同時爆破テロ、死者二五七人。
8（土）●高村正彦外相が訪中、唐家璇外相と会談（経済危機解決に次官級協議開催などで合意）。
9（日）●中国・長江が四四年ぶりの大洪水、武漢市防衛のため上流の堤防を爆破。二億人以上被災。
10（月）●新潟市の木材加工工場のお茶に毒物、一〇人入院（11日、アジ化ナトリウム検出）。
11（火）●円安、八年ぶりの一ドル＝一四七円台に。
12（水）●公務員ベア、過去最低〇・七六％の勧告。
13（木）●韓国、在日政治犯など七〇〇七人の赦免決定。
14（金）●気象庁、北陸・東北の梅雨明け発表を断念。
15（土）●北アイルランド・オマーの商店街で爆弾テロ、死者二八人（18日、「真のＩＲＡ」犯行声明）。
16（日）●コンゴ内戦で邦人ら首都・キンシャサ脱出。
17（月）●クリントン米大統領、元実習生との不倫疑惑で「適切でない関係」を認める大陪審証言。
18（火）●関谷建設相、矢作川河口堰事業の中止を表明。
19（水）●小田急、公害調整委の騒音責任裁定受け入れ。
20（木）●米国、アフガニスタンとスーダンの訓練施設など七ヵ所を大使館爆破テロの報復に攻撃。
21（金）●江沢民中国主席、洪水対策で訪日延期。
22（土）●夏の高校野球、横浜高が春夏連覇。
23（日）●ロシアのエリツィン大統領、全閣僚を解任。
24（月）●防衛庁の天下りは一四二〇人、と新聞に。
25（火）●野党三党が金融再生法案の対案提出で合意。
26（水）●東京・港区の中三男子、同級生ら二七人に郵送された「やせ薬」を飲み、入院。
27（木）●集中豪雨、福島・栃木で死者・不明一五人。
28（金）●日高弘義名大元教授ら三人、新薬開発などをめぐる一億円余の贈収賄容疑で逮捕。
29（土）●東北・上越線復旧に一ヵ月とＪＲ東日本発表。
30（日）●前年度ＯＤＡ供与、九四億ドル強で世界一と。
31（月）●北朝鮮、「テポドン1号」一発を発射。
●長野県小布施町で、缶入りウーロン茶を飲んだ男性死亡（9月5日、青酸カリ混入確認）。

共同通信社

▲世界のクロサワ(88)、お別れ(9月13日)映画「乱」の一場面を模した祭壇に、監督の遺影。横浜の黒澤フィルムスタジオに、献花の長い列ができた。政府は、その卓越した業績に、国民栄誉賞を授与。

中国新聞社

▲大野豊、43歳の引退(9月2日)前年、42歳で最優秀防御率に輝いた、広島の「中年の星」が、ついに現役に終止符。通算成績148勝100敗138セーブ。

時事通信社

▶皇后、切々と「読書の思い出」(9月21日)インドのニューデリーで開かれた国際児童図書評議会世界大会に、ビデオで講演。子ども の頃に本と出会い、身につけたことを、1時間近く英語で語られた。

ロイター/サン テレフォト

▲コール長期政権に幕(9月27日)ドイツ総選挙で、社会民主党が勝ち、首相候補のシュレーダーの就任が確実に。16年間維持してきた座を退くと声明。写真は社会民主党・ラフォンテーヌ党首(右)と。

共同通信社

◀防衛庁、家宅捜索(9月3日)装備品代金を水増し請求した東洋通信機への、返納額減額の見返りに、天下り受け入れ要求の疑い。前施設庁長官らを逮捕。

▲日本リース、倒産(9月27日)東京地裁に会社更生法申請。負債総額は過去最大の2兆4000億円。長銀の「別働隊」として、バブル期の不良債権を抱えた。

平成10年9月

1(火)●東京地検、道路公団関連の日本ハイカ元役員らを、五〇億円の損害与えた背任容疑で逮捕。
2(水)●最高裁、参院選訴訟で一票の格差四・九七倍に合憲判決(五人の裁判官は反対意見)。
3(木)●東京地検、防衛庁の元副本部長ら四人を装備品代金水増し請求分の返納額背任容疑で逮捕。
4(金)●長野・富山連続誘拐殺人事件(昭和55年)の宮崎知子被告、上告棄却され死刑が確定。
5(土)●畑山隆則、WBAスーパーフェザー級制覇。
6(日)●「羅生門」などの映画監督・黒澤明、死去。
7(月)●東京都民銀行の課長、集金中の同行員を金属バットで襲い、強盗傷害で現行犯逮捕。
8(火)●米・カージナルスのマグワイア、六二本塁打で三七年ぶり年間最多記録更新(27日、七〇本)。
9(水)●スター独立検査官、大統領の不倫報告書提出。
10(木)●防衛庁背任事件でNEC元常務ら四人逮捕。
11(金)●企業・団体献金、約一六一億円で過去最低に。
12(土)●巨人の長嶋茂雄監督、辞意撤回し続投決定。
13(日)●伊・ペルージャに移籍したサッカーの中田英寿、初戦のユベントス戦で二ゴール。
14(月)●アルバニアの首都・ティラナで野党幹部暗殺に端を発し、支持者らが暴動、警官隊と銃撃戦。
15(火)●六五歳以上人口が二〇四九万人と総務庁。
16(水)●東急百貨店、日本橋店閉鎖を発表。
17(木)●東証平均株価、終値一万三八五九円でバブル崩壊後の最安値(30日、一万三四〇六円)。
18(金)●法律用語改正法、成立(「精神薄弱」を廃止)。
19(土)●スカイマーク、「半額運賃」標榜し、初就航。
20(日)●日米安保協議委員会、戦域ミサイル防衛(TMD)構想の共同研究実施で一致。
●米・大リーグのリプケン、連続試合出場記録が二六三二で止まる。
21(月)●小渕首相、国連で北朝鮮のミサイル非難演説。
22(火)●台風七号上陸し、奈良・室生寺の五重塔など五〇件を超える奈良の文化財が破損(〜23日)。
23(水)●セスナ機が高槻市の山中に墜落、五人死亡。
24(木)●日産、経営再建で本社ビルの一部を売却。
25(金)●日韓漁業協定、共同資源管理などで基本合意。
26(土)●米、ネバダでの臨界前核実験終了を発表。
27(日)●ドイツ総選挙(社会民主党の勝利が確定)。
28(月)●東海銀行とあさひ銀行が業務提携を発表。
29(火)●防衛庁、背任容疑事件に関し証拠湮滅容疑で事情聴取を受けた藤島正之官房長らを更迭。
30(水)●広島産カキが赤潮などで大量死、と新聞に。

読売新聞社

▲「新たな日韓パートナーシップ」船出(10月8日)小渕恵三首相と金大中・韓国大統領が、東京・元赤坂の迎賓館で「共同宣言」を発表。「歴史認識」について、初めて公式文書に明記。

共同通信社

証言・あの日この日
なかにし礼(59)

7月22日(水)〈朝の10時ころ起床。寝室から1階へ降りて、まず僕は心臓病の薬を飲まなければならない。九州から取り寄せている財宝温泉水で錠剤を飲み、アロエ・ジュース、ほうじ茶を飲みながら新聞に目を通しているうちに妻が朝食を用意してくれる〉(なかにし礼「私の週間食卓日記」)

作詞家・なかにし礼は、この頃は作詞活動からは遠ざかり、もっぱら小説執筆に情熱を注いでいた。そして、満州(中国東北部)からの引揚げ体験と、戦争帰りの兄との相克を描いた初めての長編小説『兄弟』が、直木賞にノミネートされる。結果は落選。しかし、これで本格的に小説に取り組む決意を固める。この日は、10時頃起床、健康を考えて自然素材中心の朝食をとる。午後は編集者と会い、落選騒動を振り返る。(山崎行太郎)

しんぶん赤旗

◀沖縄で米兵が轢き逃げ(10月7日)バイクに乗っていた女子高生が軽乗用車にはねられ、14日死亡。米軍は、地位協定を理由に容疑者引き渡しを拒否し、起訴後、身柄を渡した。

朝日新聞社

◀国鉄清算事業団解散(10月22日)発足11年、結局28兆円の債務が残り、12月からタバコは値上げに。売れ残った「難物」の土地は、鉄建公団が引き継いだ。写真は、境界が不明確な秋葉原駅前の土地。

共同通信社

◀政党交付金を虚偽報告(10月29日)東京地検が中島洋次郎代議士(39、左)を逮捕。自民党群馬県選挙区支部に交付された2000万円の一部流用の疑い。11月19日、買収容疑で再逮捕。中島は中島飛行機創業者の孫。

朝日新聞社

▶向井千秋(46)と77歳のグレン、宇宙へ(10月29日)米航空宇宙局がスペースシャトル「ディスカバリー」を打ち上げ。グレンは米国初の宇宙飛行士で、史上最高齢での再搭乗。向井は日本人初の2度目の挑戦だった。

平成10年10月

1(木)●日銀、九月の短観業況判断指数、初めて三業種すべてがマイナスと発表。
2(金)●日本興業銀行と第一生命保険が全面提携へ。
3(土)●横綱曙、クリスティーン・麗子・カリーナと東京のホテルで結婚式。
4(日)●和歌山・毒物混入カレー事件の捜査で浮かんだ夫婦、詐欺容疑などで逮捕(26日、再逮捕)。
5(月)●東証、一二年八ヵ月ぶり一万三〇〇〇円割れ。
6(火)●政府、成長率見通しをマイナス一・八%に下方修正(首相、全閣僚に景気浮揚策を指示)。
7(水)●金大中・韓国大統領、来日。
8(木)●米下院、大統領弾劾調査開始を決定。
9(金)●新潟県朝日村の奥三面遺跡群で二〇〇〇年以上続いた縄文時代の集落の存在を確認。
10(土)●米韓合同演習、横須賀基地で指揮予定が判明。
11(日)●ロシアのエリツィン大統領、ウズベキスタン訪問で足元がふらつき健康不安が再表面化。
12(月)●NTTドコモ株、一株三九〇万円で売り出し決定(22日、東証一部上場、初値四六〇万円)。
13(火)●三田工業前社長ら六人を違法配当容疑で逮捕。
14(水)●民間の信用調査機関、平成一〇年度の企業倒産は上半期で一四年ぶり一万件突破と発表。
15(木)●中国と台湾の民間窓口機関トップ、汪道涵と辜振甫が会談、「対話」強化で合意。
16(金)●参院、額賀防衛庁長官の問責決議を可決。
17(土)●全日本体操個人で塚原直也・菅原リサ三連覇。
18(日)●豪・タスマニア島の海岸に、ゴンドウクジラ一〇〇頭以上が打ち上げられ、約六〇頭死亡。
19(月)●東京地裁、総会屋への利益供与事件の第一勧銀元専務ら六人に執行猶予つきの有罪判決。
20(火)●韓国、日本の大衆文化の段階的開放案を発表。
21(水)●米大リーグでヤンキース、二四度目の優勝。
22(木)●国鉄清算事業団、発足一一年で解散。
23(金)●小渕首相、長銀の特別公的管理を決定。
24(土)●大和銀行、海外業務からの撤退を発表。
25(日)●北海道の駒ケ岳が二年七ヵ月ぶりに噴火。
26(月)●プロ野球、横浜が三八年ぶりの日本一に。
27(火)●独議会、社民党のシュレーダーを首相に選出。
28(水)●岡山大医学部で生体部分肺移植手術、成功。
29(木)●元自民党・中島洋次郎、政党助成法・政治資金規正法違反容疑で逮捕。
30(金)●防衛庁、先月の北朝鮮人工衛星打ち上げ主張に、ミサイル発射を強調する最終報告。
31(土)●第一勧銀・富士銀、新信託銀行設立に合意。

朝日新聞社

産経新聞社

▲**大塚製薬社長ら逮捕（11月10日）**名大医学部元教授に払った7200万円を、愛知県警が新薬開発にかかわる賄賂と認定。大塚明彦社長（61、写真）を贈賄、日高弘義元教授（60）を収賄容疑で逮捕。産学協同の癒着を暴露した。

▼**鎌倉シネマワールド、閉鎖（11月10日）**松竹が12月15日で撤退すると発表。創業100周年事業で始めたテーマパークも、入場者が激減し、わずか3年しかもたなかった。

産経新聞社

▲**出でよ「しし座流星群」（11月18日）**33年ぶりの流れ星のシャワーを見ようと、交通渋滞まで起きる大騒動。写真は午前3時すぎの「東京湾アクアライン」で。

朝日新聞社

◀**琴錦、2度目の平幕優勝（11月22日）**大相撲九州場所で、上位陣の不調を尻目に14勝1敗。かつての大関候補も30歳。前頭12枚目まで落ちていた。

読売新聞社

◀**中央公論社、読売新聞傘下に（11月2日）**嶋中雅子会長兼社長（写真左）が、経営難のため営業権と資産を譲渡すると発表。右は渡辺恒雄読売社長。

産経新聞社

▲**淀川長治「さよなら」（11月11日）**独特の語り口で多くのファンを持つ映画評論家が、ついに帰らぬ人となった。テレビ「日曜洋画劇場」の解説は30年におよんだ。89歳。

平成10年11月

1（日）●競馬・天皇賞でサイレンススズカ骨折、安楽死。
2（月）●中央公論社、読売新聞社に営業権譲渡を発表。
3（火）●米中間選挙（大統領醜聞で不利な民主党勝利）。
4（水）●東京の中三女子に売春させた中二男子を逮捕。
5（木）●大阪府警、サイバー・ストーカーを初の逮捕。
6（金）●第一勧銀と富士銀、信託部門の合弁を発表。
7（土）●公明党、新党平和と公明合流で四年ぶり復活。
8（日）●静岡県警、ヤオハンジャパンの和田晃昌元社長ら三人を粉飾決算・違法配当容疑で逮捕。
9（月）●警視庁、ビデオ販売店経営の東京三菱銀行調査役・中村明俊を裏ビデオ販売容疑で逮捕。
10（火）●大塚製薬の大塚明彦社長ら、贈賄容疑で逮捕。
11（水）●厚生省、エイズ研究班第一回会合（昭和58年6月）の録音テープ内容などを公表。
12（木）●NECの永利植美元専務ら三人、防衛庁の上野憲一元本部長への贈賄容疑で逮捕。
13（金）●自衛隊員八〇人、ハリケーン被害の中米・ホンジュラスへ救援活動に出発（～12月5日）。
14（土）●イラク、米国の武力行使直前に査察再開同意。
15（日）●沖縄県知事選で大田昌秀、三選ならず。
16（月）●政府、二四兆円規模の緊急経済対策を決定。
17（火）●三一書房労組、東京地裁に本社ビルのロックアウト解除の仮処分を申請。
18（水）●「しし座流星群」、地球に三三年ぶり大接近。
●文部省、平成一四年度からの完全学校週五日制で内容三割減の小中学校学習指導要領発表。
19（木）●クリントン米大統領、来日（テレビ番組で一般市民と対話）。
20（金）●額賀福志郎・防衛庁長官辞任。
●自民党と自由党、連立政権の樹立で基本合意。
●法務省、三人の死刑執行を初めて公表。
21（土）●琴錦が史上初、二度目の平幕優勝を決める。
22（日）●全日本大学女子駅伝で城西大、初優勝。
23（月）●米国防総省、アジア太平洋地域の兵力一〇万人維持を「東アジア戦略報告」で発表。
24（火）●パレスチナ自治区ガザに初の国際空港が開港。
25（水）●江沢民・中国国家主席、来日（26日、小渕首相と会談、仙台を経て札幌から30日帰国）。
26（木）●富士重工の小暮泰之元専務、中島代議士への贈賄で逮捕（12月1日、川合勇会長も）。
27（金）●オリックスのスカウト、那覇市で投身自殺。
28（土）●Jリーグ、鹿島が二度目の年間王者に。
29（日）●バレー世界選手権男子、イタリアが三連覇。
30（月）●ドイツで性転換表明の村長にリコール成立。

AP／WWP

PANA通信社

▲**オウム・松本被告の主任弁護人逮捕（12月6日）**住管の差し押さえのがれで、不動産会社に資産隠しを指示した強制執行妨害容疑。安田好弘弁護士は、死刑廃止運動の中心人物。

◀**米英軍、イラクを爆撃（12月16日）**国連の大量破壊兵器査察への非協力を理由に、4日間の空爆。写真は作戦の第1波攻撃で、米空母「エンタープライズ」を飛び立つ戦闘機の閃光。

▶**日債銀、一時国有化へ（12月12日）**債務超過はないとする自己査定に対し、金融監督庁は944億円の債務超過を指摘。金融再生法にのっとり、政府が破綻認定と特別公的管理を通告。写真は13日、総理府を出る、日本銀行出身の東郷重興頭取。

毎日新聞社

日刊スポーツ

▲**イチロー（25）、史上初の5億円更改（12月16日）**オリックスが「球界トップに」と、横浜ベイスターズ・佐々木主浩投手の4億8000万円を意識し、1年契約の年俸5億円。5年連続首位打者の偉業が再確認された。写真は、契約更改後の記者会見で。

共同通信社

朝日新聞社

◀**富士重工・川合勇会長（76）を逮捕（12月1日）**元防衛政務次官・中島洋次郎代議士に、防衛庁への救難飛行艇受注工作を依頼、500万円を贈賄した疑い。政党交付金流用疑惑に始まる中島容疑者の摘発が拡大した。

▲**父子2代の「アジアの王者」（12月13日）**バンコクで開催中のアジア大会男子ハンマー投げで、室伏広治選手（24）が78メートル57の日本新で優勝。同種目5連覇の父・重信（53、左上）と、喜びを分かちあった。

平成10年12月

1（火）●旧国鉄債務のためタバコ一本一円の値上げ。
2（水）●ダイエーのサインスパイ疑惑発覚（11日、球団調査委否認。21日、パ・リーグ調査委発足）。
3（木）●自民党、自由党提案の副大臣制導入を表明。
4（金）●千葉県警、チケット詐欺で高一女子を送検。
5（土）●台湾総選挙、国民党が議席過半数を獲得。
6（日）●タイのバンコクでアジア競技大会開幕（高橋尚子、女子マラソンで大会第一号の金メダル）。
7（月）●公取委、郵政省発注の郵便物区分機の入札でNECと東芝に独禁法違反の審判開始決定。
8（火）●「YS11」の量産第一号機、最後のフライト。
9（水）●和歌山の毒物混入カレー事件で、林眞須美容疑者を殺人・殺人未遂で再逮捕（29日、起訴）。
10（木）●岩波映画、東京地裁に自己破産を申し立て。
11（金）●タイ航空機、スラタニ空港で着陸に失敗して墜落（一〇一人死亡、負傷者四五人）。
12（土）●政府、日本債券信用銀行に一時国有化を通告。
13（日）●逗子市で最年少三一歳の長島一由市長誕生。
14（月）●米大統領、パレスチナ自治区を初訪問。
15（火）●韓国でヒト細胞の「クローン実験」が判明。
16（水）●米英軍、査察妨害のイラクを空爆（19日まで）。
●オリックスのイチロー、球界初の年俸五億円。
17（木）●農水省と自民党と全中、翌年四月から輸入米一キロに約三五一円の関税実施を正式決定。
18（金）●韓国軍、領海侵入の北朝鮮潜水艇を撃沈。
19（土）●横浜高校の松坂大輔投手、西武入りを表明。
20（日）●三島市長選、連座制で衆院静岡七区への立候補を禁止されている小池政臣が当選。
21（月）●閣議、八一兆八六〇一億円の予算原案を了承。
22（火）●大阪府警、中三男子を強盗殺人容疑で逮捕。
23（水）●東京タワー、開業四〇周年。
24（木）●宅配毒物による東京の女性の自殺判明（25日、インターネットで「ドクター・キリコ」を名乗る札幌の送り主の自殺も判明）。
25（金）●一一月の完全失業率、四・四％で最悪を更新。
26（土）●海外での冬休み組三万七六〇〇人が成田発。
27（日）●経企庁、『一九九八年経済の回顧と課題』でバブル崩壊後の経済政策の間違いを認める。
28（月）●俳優の松方弘樹、元女優の仁科明子と離婚。
29（火）●WBCバンタム級チャンピオン・辰吉丈一郎、タイのウィラポンに六回KO負け。
30（水）●東証大納会、終値が前年比三年連続の下落で一三年ぶりの一万三〇〇〇円台。
31（木）●南極大陸単独横断の大場満郎、南極点に到達。

我楽多市（がらくたいち）

流行語
バブルはじけて女心変わる

「3C」。平成一〇年版『厚生白書』が指摘した未婚女性の結婚観で、相手の男性に対し、Comfortable（十分な給料）、Communicative（理解しあう）、Corporative（家事に協力的）を求めるというもの。バブル時代の三高（学歴、給料、身長が高いこと）からの変化を示すものと言われた。

「ノーパンしゃぶしゃぶ」。ノーパン嬢のサービスでしゃぶしゃぶを食べさせる店。東京・新宿にあり、大蔵省の役人たちが、銀行や証券会社の接待で、この店を頻繁（ひんぱん）に使っていたことが判明、エリートとされる人々の低劣なレベルを示すものとして話題になった。

「ビビビッ」。歌手の松田聖子が年下の歯科医と再婚。初対面の印象を聞かれた時、彼女が語った言葉。「ビビッ」ではなく、「ビビビッ」である点が彼女らしいとして、若い女性の間で話題を呼んだ。

「だっちゅーの」。女性のお笑いコンビ「パイレーツ」が、胸の谷間を強調しながら放つギャグで、女子中高生の間に会話のアクセントとして流行した。

©吉川文子／I.T.planning,Inc.

▲吉川英治原作・井上雄彦画「バガボンド」が「モーニング」9月17日号から連載開始。「Slam Dunk」で一世を風靡した井上が時代劇に挑戦し、人気を得る。

家庭
出産は畳に土間の家でユニークな「お産の家」

〔名古屋発〕お産の本来の姿を取り戻そうと、愛知県岡崎市の産婦人科「吉村医院」の吉村正院長（六六）が、江戸時代の民家風の産院「お産の家」の建設を始めた。

吉村院長はこれまでの四〇年間で、延べ二万人の出産を担当。以前は最新の医療機器などを使っていたが「出産時の妊婦の異常が多いのは、陣痛促進剤の使用や機械に囲まれた分娩（ぶんべん）台が妊婦を緊張させるからでは」と考え、二五年ほど前から自然なお産の実践を始めた。院内には全国でも珍しい和室の分娩室を設けたり、江戸時代の農家を移築したり、さらに妊婦たちに薪割りや掃除などで運動不足を解消させ、出産への不安を和らげている。

建設中の「お産の家」はこの考えをさらに進めたもので、延べ約三三〇平方メートル。縁側に面した八畳間が三つに、広い土間やいろりのある板の間、台所などもあり、妊婦や家族は出産前後一週間ほど、この家ですごすこともできる。平成一一年四月に完成するという。（「中日新聞」四月二四日）

CM100年　タレント・橋龍吾、皆川ユキ

テレビCF「わたしはスレンダーグラマー。──スレンダーブラふんわりタッチ」（ワコール）──女性用下着のCMに男性が初登場。

データ
カイロからまゆずみまで中高生のカバンの中味

男女の中学・高校生にカバンの中味を見せてもらった。それによると──、

・男子の場合

カッターナイフ、使い捨てカイロ、教材用の新聞、ハンカチ＝中学一年生

携帯電話、PHS、ポケベル、パーティー券、単行本『しつけ喪失の国ニッポン』＝高校一年生

脂（あぶら）取り紙、ハンドクリーム、携帯電話、ポケベル＝高校一年生

・女子の場合

爪磨き、裁縫セット、紙石鹸、ウエットティッシュ＝中学一年生

プラダの財布、化粧ポーチ（ファンデーション、マスカラ、まゆずみ、ビューラーなど）、レンズつきフィルム＝中学二年生

化粧セット、携帯電話、ポケベル、制汗スプレー、大きな手鏡、タバコ＝高校二年生

（「朝日新聞」二月八日）

▶八月二九日、アップルコンピュータの新製品「iMac」が発売。斬新なデザインがこの世界にも。

APPLE COMPUTER提供

はやり歌

Time goes by　作詞 作曲 五十嵐充

Wow wow wow…
きっときっと誰もが
何か足りないものを
無理に期待しすぎて
人を傷つけている
Wow wow wow…
会えばケンカしてたね
長く居すぎたのかな
意地を張ればなおさら
隙間広がるばかり
Kissをしたり
抱き合ったり
多分それでよかった
あたりまえの　愛し方も
ずっと忘れていたね
信じ合える喜びも
傷つけ合う悲しみも
いつかありのままに
愛せるように
Time goes by…

▶歌はEvery Little Thing。ボーカルの持田香織ら三人編成のバンドだが、平成一〇年二月にリリースされたこの曲で、彼らは一気にブレイクした。

AVEX JAPAN提供

Perfume of love　作詞 TK&MARC　作曲 小室哲哉

君の名前は
ずっと忘れずにいたいよ
できたら繋（つな）いだ手の温（ぬく）もりも
どうして離れて忘れて
いかなきゃいけない
Perfume of love　香りだけ残って
このごろ夜明けに
恐い夢ばかり見ている
携帯の電源も切ってる
こんな都会で人混みの中
たった一人で
気付かない新しい一日
体中で始まってるかも
目を閉じて力や温もりが
愛が君が全（すべ）て wo wo wo
一緒にいる時確かな事
語れる夢は　未来を永遠に
救ってくれるよ
体中に香水かけて
気付かせてみたい
いつからか再び　からまる

AVEX JAPAN提供

▲TMネットワーク出身のプロデューサー・小室哲哉率いるバンド、globeが歌った。9月から続けて4枚連続リリースして話題になったが、これはその4枚目にあたる曲。

◀7月16日、東京・渋谷で電子マネーの使用実験が行われ、アイスクリームを買う親子。はたして、普及するのか。

共同通信社

三面記事
吉本には負けへんで！

〔大阪発〕女の子の、女の子による、女の子のためのシアターが、大阪・梅田のド真ん中に堂々とオープンした。その名もズバリ「女の子劇場」。

総勢約二〇人、平均年齢一九歳の女の子たちが日替わりで七、八人ずつ舞台に上がる。一人でやる子もいればコンビもいる。ただ全員が素人である。だから昨日の出来事や、家であったことなどを思いのままにしゃべっているが、それが自然で、ツボにはまったら、かなり笑える。

そんな快挙をやってのけたのは店長の中村満枝さん。

「電車の中や街を歩いている女子高生や、女の子たちの会話が面白くて、普段の会話をそのまま舞台に乗せられないかと思ったの」

はたして成功するかどうか見当もつかなかったが、持ち前の行動力を発揮して八月、オープンした。「うめだ花月（かげつ）」の前のビルの八階で、客席三〇席のミニシアター。コンセプトは「作りものでない、あくまで素人のよさ」を追求することだという。

女の子たちは「いつの日か吉本を越えたい」という情熱を内に秘め、今日も舞台に励んでいる。（「関西じつわ」九月二八日号）

▲「銀座並木座」の閉館が決まり、9月22日、最後の上映に行列ができた。

共同通信社

海外
中国でベストセラー『失楽園』の性描写

〔北京発〕渡辺淳一の小説『失楽園』が、アジアを席巻（せっけん）しつつある。すでに昨年、台湾、韓国で翻訳されてベストセラーになり、今年の四月に出版された香港版も好調。そして五月には中国本土でも出版された。

ところで、例の喪服のセックスシーンだが、中国語ではこんな感じだ。

久木（くき）の手が、凛子（りんこ）の喪服をかき分け「女人私処」に触れる。凛子は小声で叫ぶ。

「啊！（あ！）」

緊接著中指指尖點上敏銳的小小陰帯（中指の先が小さくて敏感なところに触れる）。

「不要弄了（やめて）……」

と恥じらう凛子。

「好棒！好美！太漂亮了！太好了！（凄い！　美しい！　素晴らしい！）」

と喜ぶ久木。やがて二人は「淫蕩的世界裏」に落ち「野獣交合」。そして最後は、

「猶如断気前的咆哮達至高潮（絶え入るような咆哮（ほうこう）とともにはてていく）」

お堅い中国で大丈夫かと心配になるが、硬派の「法制日報」の書評欄は「真の愛は時に道徳の防波堤を突破する。この作品は愛の絢爛（けんらん）と美だけでなく、獰猛（どうもう）さと怖さも描いた」とべたほめしている。（「週刊朝日」五月二九日号）

共同通信社

▶宮崎県山之口町で、カブトムシやクワガタなどの昆虫自動販売機が大好評に。

▲東京・大井競馬場でナイター競馬の合間に、重要無形民俗文化財「相馬野馬追」のうち「古式甲冑競馬」の実演。10月。

朝日新聞社

この年の初もの
パリに回転寿司　石川県の男性が開店

●**立体商標**　特許庁が五月、早稲田大学の「大隈（おおくま）重信像」、日本ケンタッキー・フライド・チキンの「カーネル・サンダース人形」など五点を認定。

●**しゃべる冷蔵庫**　松下冷機が、運転状態や故障を言葉で知らせる冷蔵庫を発売。

●**女子高生編集長**　大阪のコギャル向け雑誌「キンキ・ジャストリー」の編集長に、現役女子高生の吉田千秋が抜擢（ばってき）される。

●**シルバー登山学校**　高齢者だけを対象にした登山学校が、横浜に開校。

世界の動き

新型日本

北朝鮮「テポドン1号」騒動の真相

ミサイル説が人工衛星説に落着するまでの危機管理能力の欠如をあらためて露呈！

▲朝鮮人民軍創建60周年記念閲兵式の金正日（右端）。現在、国内の権力を一手に掌握していると言われる（1992年4月、平壌・金日成広場）。

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の建国五〇周年祝典や、金正日の、事実上の国家元首である「国防委員会委員長」再任を直後に控えた平成一〇年八月三一日、一発の飛行物体が日本に飛来した。米国からの第一報によって、それを新型ミサイルと決めつけ、パニックにおちいった日本。疑心暗鬼の日朝関係を象徴するこの騒動は、わが国の情報収集能力の欠如をあらためて露呈した。

頭越しに飛んだ物体のターゲットは日本全体

「本日正午すぎ、北朝鮮の東部沿岸から日本海に向けて弾道ミサイル一発が発射された——」

このショッキングな第一報が在日米軍から防衛庁に伝えられたのは、平成一〇年八月三一日正午すぎだった。

当時の情報を要約すると——。

発射されたのは弾道ミサイルの「テポドン1号」。一段目のブースターは能登半島沖の日本海上に、二段目は三陸沖約九〇キロの太平洋上に、三段目はさらに遠くの太平洋上に着弾した。一九七六年にエジプトから旧ソ連製スカッドBミサイルを購入して以来、次々とミサイルを開発してきた北朝鮮だが、この射程距離が最大二〇〇〇キロの「テポドン1号」（全長二五メートル、弾頭重量一トン）によって、日本列島全体がターゲットになる。

この日、「ミサイル」の落下時刻には付近を民間航空機七機が飛んでおり、大惨事につながる可能性もあった。そこで日本は、九月一日に国交正常化交渉凍結の方針を決定。三日の参院本会議では↖

◀朝鮮通信社が9月5日に配信した「人工衛星第1号」の打ち上げ写真。3段式運搬ロケットで打ち上げられた。

「北朝鮮の弾道ミサイル発射に抗議する決議案」を採択し、チャーター便の停止など、北朝鮮批判を強めていく。

これに対し、北朝鮮側は九月四日に発表した声明で「人工衛星打ち上げに成功した」と、ミサイル説を否定。さらに、「日本が口出しする性格の問題ではない」と一蹴した。

今回の打ち上げの背景について、「コリア・レポート」の辺真一編集長は、

「まず、北朝鮮の建国五〇周年祝典や、金正日の国家元首就任に向けた国威高揚のため、もうひとつは、八月三一日にニューヨークで始まったミサイル拡散防止に関する米朝協議への牽制の意があった」

と分析する。

専門家を震撼させたミサイル開発の速度

北朝鮮からの飛行物体が、最初から「ミサイル」と思われたのも、ある意味では無理なかった。まず、この年八月中旬から「北朝鮮がミサイルを移動している」との情報を、直前には「発射実験がありそうだ」という連絡を、日本は米軍から得ていた。北朝鮮には、平成五年五月に「ノドン1号」（射程一三〇〇キロ）を能登半島近くに試射した〝前科〟もある。

ところが、「ミサイル説」の風向きが九月一一日。この日、米国務省は「北が人工衛星を打ち上げたが失敗に終わった」と発表。事件当日、ミサイル発射の速報を流した韓国も、米国に同調して「人工衛星説」を支持する。

反対に、「ミサイル説」を主張し続ける防衛庁は一〇月三〇日、飛行速度の分析結果などから「弾道ミサイルの発射の可能性が高い」と結論づけた。

軍事評論家の江畑謙介氏は、飛行物体について、「ミサイルと人工衛星の可能性は五分五分」と、次のように分析する。

「ただし、ロケットに搭載するのが、衛星か弾道弾かの違いだけで、北朝鮮が日本を標的にしうるミサイル技術を持った事実は変わりません。たとえ人工衛星でも、軍事的脅威は同じ。だからこそ、世界中の軍事専門家を八月三一日に、ここまで技術が進んでいたのかと震撼させたわけです」

北朝鮮の技術力では、「テポドン」の完成は数年先と予測されていたという。

「これが意味するのは、どこかの国、もしくはロシア人の軍事技術者といった第三者が技術支援をした可能性が非常に高いということです。一説には、インドやイランが以前に開発したミサイルに似ていると言われています」（江畑氏）

「打ち上げの現場に中東の技術者やバイヤーが立ち会った」という情報もある。

ミサイル輸出は、年間一〇億ドルと言われる北朝鮮最大の外貨獲得手段。それだ

朝鮮通信社／PANA通信社（右と下も）

▲1992年のパレードに登場したミサイル。旧ソ連製「スカッドBミサイル」を改良したものと思われる。1993年に発射実験を行った「ノドン1号」は、命中精度がきわめて悪かった。

外から見たNIPPON

カナダ政府との闘いでジョイ・コガワを支えた〝二世の発想〟

佐伯 修

「子供の頃は、日本人が認められる時代がやって来るとは夢にも考えられなかった。私は幼児期、少女期を第二次大戦の中で過ごし、そして青春を迎えた。当時私が住んでいた社会では、日系であるということが恐ろしい病気であるかのように、隠すべきことであった。しかし隠しておくことはできなかった。まわりの人の目には、非難がいっぱいだった。ジャップ！ あっちへ行け！ 恥知らず！ 人間以下だ！ 敵だ！」（佐藤アヤ子訳）

カナダ・バンクーバー生まれの、日系二世の小説家で詩人のジョイ・コガワ（一九三五～）は、文芸雑誌「新潮」のこの年二月号に発表したエッセイ「二世として語ると」を、こう切りだしている。

少年時代、「山に落ちている牛糞を集め、わらじを履いて山道を歩きながら英語を学んだ」明治の日本人だった彼女の父親は、彼女に「二宮金次郎の話」を語り聞かせ、「仲良く暮らすこと」「自分の欲望は犠牲にしても他者の願いを受け入れること」「礼節をもって振る舞うこと」「自分や家族、社会の面目を失わないこと」などを重んじることを教えた。

▶小説に、戦中の日系人を描く『オバサン』など。

CANA PRESS PHOTO／デジタルハウス

そんな家庭教育を受けたことについて、コガワは「当時は分からなかったが、古き日本の精神的価値を大切にする環境の中で育ったことは、大変な特典であった」と述べている。同時に、彼女たちは「学校や教会、日曜学校で、中東に起源をもつ西洋の精神的な価値観を学んだ」世代でもあった。

第二次世界大戦前後、アメリカ合衆国などにおけると同様、カナダでも、日系市民は〝敵性国民〟としてさまざまな政治的迫害を受けた。戦後、それら不当な扱いに対する補償と名誉回復を求める運動の中心を担ったのは、彼女のような二世たちだったが、彼らの多くは、この運動にかかわる中で、家庭で教えられた東洋的な「謙遜の徳」と、学校で教えられた西洋的な「まっすぐ立って、私（相手）の目を見て、遠慮なくはっきり話しなさい」という態度とのジレンマからくる一種のためらいを体験した。それは、東洋的発想そのものの一世にも、西洋的発想そのものの三世にも、ありえない種類のものだった。

一九八八年、二世を中心とする「全カナダ日系人協会」は、カナダ政府からついに謝罪と補償をかちとる。コガワは、「我々が退治した悪魔は、日系人の心の中にあった無力感だった」と述べ、カナダの日系人は少数派（マイノリティー）ゆえに、かえって「逞しく」「賢く」「分別」深く闘えたと指摘している。

けに、「イラン、パキスタンなどとつらなる大規模な開発コネクションが存在すれば、一気に世界中へ弾道ミサイルが広がる可能性もある」（江畑氏）という。

防衛庁側は記者会見で「わかりません」を連発

まさに、世界のミリタリーバランスを激変させる可能性をはらんだ一件だったにもかかわらず、日本政府の対応は、あまりにもお粗末だった。

「ミサイル」が日本上空を飛び越したという情報が当日、小渕恵三首相（六一）の耳に入ったのは、米軍の第一報から約五〇分たった三一日の午後零時五〇分頃。着弾地点についての記者会見が開かれたのは、深夜の一一時一五分だった。それも、会見にのぞんだ河尻融防衛審議官は、記者の質問に「わかりません」を連発。この日の午後三時すぎには、落下地点の詳細なデータをマスコミに流していた韓国国防省とは、雲泥の差だった。

そこで、関谷勝嗣建設大臣などから、「白昼夢を見ているようだ。危機管理の基本じゃないか」（九月一日記者会見）と不満が噴出した。

こうした批判の中で、平成一〇年一〇月三〇日、防衛庁は平成一四年までに独自開発の情報衛星四基を打ち上げる素案を、あわててまとめた。

折しも、装備品調達をめぐる背任容疑で証拠隠滅をはかった直後の防衛庁を直撃し、その右往左往ぶりをあらわにした〝テポドン騒動〟は、「湾岸戦争」で問題になった情報の早期収集や分析といった危機管理の向上に、防衛庁が何も手をつけていない実態も、露呈したのである。

▲託児所で力なく座る子どもたち。北朝鮮の食糧不足は深刻で、ある町では、幼児の約4割が発育不全という（写真は1997年撮影）。

日本財団提供

と同時に、この騒動は、「日朝関係に決定的ダメージを与えた」と辺氏は言う。

「日本人拉致疑惑で手詰まり状態にあった日朝関係は、これで完全に八方塞がりになりました。現段階ではどちらかの国が妥協するとは考えにくい。残念なのは、かつて北朝鮮と地下外交を展開した社会党のような存在が今はもうなく、さらに北朝鮮と太いパイプを持つ政治家もいないことです」

平成一〇年一〇月、金大中（キムデジュン）韓国大統領（七二）が来日した際、「同じ空を飛んできても、あちら（北朝鮮のロケット）は、招かれざる客だった」と、北朝鮮を皮肉ったという。

「今後、北朝鮮が再び実験を行って、日本を揺さぶってくるのはまず間違いないでしょう。日朝五〇年の総決算がこの〝テポドン騒動〟だとしたら、あまりにも残念ですね」（辺氏）

往きて還らぬ

共同通信社

▲6月10日　吉田正（77）
作曲家。シベリア捕虜収容所で作曲した「異国の丘」で有名に。「有楽町で逢いましょう」「いつでも夢を」なども。

共同通信社

▲2月5日　武原（たけはら）はん（95）
日本舞踊家で、地唄舞（じうたまい）の名人。薫り高い芸風で地唄舞を座敷芸から舞台芸術に昇華させた。昭和63年文化功労者。

ロイター／サンテレフォト

▲9月21日　F・G・ジョイナー（38）
1988年ソウル五輪の陸上で金メダル3個獲得。100・200メートルの世界記録保持者だったが、心臓発作で急死。

▲5月14日　フランク・シナトラ（82）　米国を代表するエンターテイナーで、1969年「マイ・ウェイ」が大ヒット。女優のエバ・ガードナーなどと4度結婚。

▲1月9日　福井謙一（79）
化学者、京大名誉教授。独創的な「フロンティア電子理論」などで、1981年日本人初のノーベル化学賞受賞。

▲11月21日　前田真三（76）
風景写真の第一人者。昭和60年『奥三河』で毎日出版文化賞受賞。北海道・美瑛（びえい）を撮り続けた〝丘シリーズ〟がある。

▲8月22日　村山実（61）
元阪神の投手。ダイナミックな投法で知られ、巨人軍・長嶋茂雄との数々の名勝負を生む。阪神監督もつとめた。

共同通信社

▲5月19日　高田浩吉（こうきち）（86）
俳優。戦前から時代劇で活躍し、〝歌う映画スター〟第1号に。終戦直前、高田浩吉劇団を結成。「伝七捕物帖」など。

▲1月28日　石ノ森章太郎（60）
「サイボーグ009」で知られる人気マンガ家。テレビから登場したヒーローの草分け「仮面ライダー」も手がけた。

毎日新聞社

▲12月30日　木下恵介（けいすけ）（86）
映画監督。「二十四の瞳」「喜びも悲しみも幾歳月（いくとしつき）」などの情緒あふれる名作で、日本映画の黄金時代を築いた。

▲8月26日　田村隆一（りゅういち）（75）
戦後の代表的な詩人。昭和31年『四千の日と夜』刊行、文明批判的な詩作で注目を集めた。ミステリーも翻訳。

▲6月1日　松田道雄（89）
小児科医で、評論家。ユニークな育児書を多数出版、昭和42年『育児の百科』はベストセラーに。平和運動も実践。

毎日新聞社

▲2月5日　初代高橋竹山（ちくざん）（87）
青森県出身。盲目の津軽（つがる）三味線の名手として知られ、海外でも評判に。自伝は、昭和52年映画にもなった。

ミニ事典 1998年のキーワード

スペース・クルーザー
米・バージニア州の民間航空宇宙企業が開発した、一般人対象の宇宙旅行プログラム。「ツー・ビークル式スペース・クルーザー」。一月二〇日、日本向けの募集開始。すでに米英などから二五人が応募。一回の乗客は六人。まず航空機で五万フィートに上昇、分離した宇宙船がロケットエンジンで「宇宙飛行士高度」に運び、二分半ほど無重力旅行を楽しめる。費用は一人約一二七四万円。

コンピュータ二〇〇〇年問題
西暦の表示に下二桁しか使っていない古いコンピュータは〇〇を一九〇〇年と誤読、二〇〇〇年一月一日以降、制御不能になるという問題。二月四日、米会計検査院が、連邦航空局（FAA）使用のコンピュータは二〇年以上も前のもので、二〇〇〇年問題で大混乱を起こすおそれがあると警告。FAAは、世界の航空の五五パーセントに関与しており、日本への影響も必至となる。

NPO
さまざまな分野で活動する民間の非営利団体。平成七年の「阪神・淡路大震災」での活動をきっかけに、法的保護をめざす運動が勃興。三月一九日、衆院本会議で、支援するための「特定非営利活動促進法」が全会一致で成立。一年以内の施行に向けてNPOは法人格を申請、行政はそれを認証する作業が始まった。経企庁の調査では、八万五七八六団体のうち四割近くが福祉団体だった。

デリバティブ
金融派生商品。通貨・債券・株式などの原資産に対して、それに連動して価格変動する金融の総称。先物取引・オプション取引など。デリバティブの利用目的は、保有資産の価格変動リスクを相殺する、少額の資産で多額の投機を行うなど。乳酸菌飲料の最大手・ヤクルト本社が、三月一九日、この取引で一〇五七億円を超す損失を出したことが明らかになり、危険性が注目された。

共同通信社

▲デリバティブで1057億円の損失を出し、会長・副社長の辞任を発表するヤクルトの記者会見。

廃炉時代
次々に解体撤去が迫られ始めた原発の「高齢化」の流れ。三月三一日、茨城県の東海発電所が日本の商業原発で初めて閉鎖。米国や欧州に続き、日本も廃炉時代に一歩踏み出した。東海原発は昭和四一年に営業運転を開始したが、一キロワット時の発電単価がほかの原発の二倍、補修費は軽水炉の四倍。今後、日本の電力業界は運転を続けるか解体するか、炉ごとに判断を迫られることになる。

飛び入学
「希有な才能を持つもの」を対象に、高校二年から大学に進学する道を開く制度。千葉大学が、この年四月から全国で初めて導入。初年度は工学部で募集、一一人が受け三人が合格した。試験は「火星に水がなくなったのはなぜか」など、ひらめきに重きをおく小論文と面接。審査には一〇人前後の教官があたり、入学後は、それぞれ二人の指導教官がついて、潜在能力開発につとめる。

共同通信社

▲千葉大への飛び入学が決まった3人のうち、門司高2年の梶田晴司君（左から二人目）。

性同一性障害
生物学的には完全に正常でありながら、人格的に自分が別の性に属していると確信している状態。胎児期のホルモンの影響が指摘されるが、はっきりした原因はわかっていない。五月一二日、性同一性障害と診断された女性に対して、埼玉医大倫理委員会が日本で初めて性転換手術を認め、一〇月一六日、公式手術が開始。患者は三〇歳の女性で、幼時から心と体の性の不一致に悩んできた。

ブリッジバンク制度
破綻した金融機関を金融監督庁の管理下におき、債権整理にともなって打撃を受ける、善意の借り手への融資を暫定的に引き継ぐ受け皿銀行（ブリッジバンク）を設立する制度。七月二日、政府・自民党が、日本経済を成長軌道に戻すことをねらう金融再生トータルプランの柱として導入を決定。従来の処理では、要注意先債権など、正常化する余地のある借り手も破綻させるおそれがあった。

国際刑事裁判所設立条約
大量虐殺や戦争犯罪に対する個人の罪を裁く、国際刑事裁判所（ICC）の設置を定めた条約。七月一七日、ローマで行われた外交会議で賛成多数で採択。条約は批准国が六〇ヵ国に達した時点で発効。裁判所はオランダのハーグにおかれる。数十年来の世界の理想だった、国際的な常設裁判所設置に一歩近づいた。しかし、米国のほか中国、イスラエルが反対、実効には暗雲が立ちこめている。

AP／WWP

▲7月21日、江沢民総書記（左）と握手する不破哲三共産党委員長。

日中共産党和解
昭和四一年に路線上の違いから決裂して以来、三二年ぶりの関係正常化。七月二一日、江沢民総書記と不破哲三委員長が北京で会談、台湾独立を認めない「ひとつの中国」の原則に立つことで一致し、日中関係やアジアと世界の平和についての日本共産党の姿勢を中国側が評価して、いっきょに和解が実現した。政府・自民党に対抗する力を蓄えてきた日本共産党とのパイプは、中国の強く望むところだった。

TMD（戦域ミサイル防衛）構想
弾道ミサイルをレーダーで探知、海上のイージス艦などに配備したミサイルで迎撃する防御システム。九月二〇日、ニューヨークで開かれた外務・防衛担当閣僚による日米安全保障協議委員会（2プラス2）で、共同技術研究を実施することで合意。しかし、中国の反発が必至なうえ、今後の共同技術研究に二〇〇億〜三〇〇億円が必要とされ、費用対効果の面でも慎重論がある。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1998 CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター／山口至剛
表紙デザイン／山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕二
本文レイアウト／デザインオフィス八起き
編集協力／(有)エービーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ (有)マックス (有)マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 森邦久 結城順一 吉田忠正
●写真協力
楠田守 熊谷武二 但馬一憲 藤原重信 ダグ・ベンジンガー 馬淵直城 森村泰昌 吉川文子 ビンセント・ラフォレ
赤旗 朝日新聞社 AFLO PHOTO AGENCY AP ALL SPORT CANAPRESS PHOTO 共同通信社 産経新聞社 サンテレフォト 時事通信社 スポーツニッポン新聞社 中国新聞社 朝鮮通信社 デジタルハウス 日刊スポーツ PANA通信社 「FRIDAY」 文藝春秋 毎日新聞社 読売新聞社 ロイター WWP
I・T・planning Inc APPLE COMPUTER AVEX JAPAN エンハンス 松竹 東映ビデオ 東宝 日本スポーツビジョン
日本財団 日本雑誌協会

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀
第99号 2月9日(火)発売 毎週火曜日発売 講談社 定価560円 本体533円

1900［明治33年］

●特集
二〇世紀に向けての大イベント「パリ万博」、華やかに開幕！／八ヵ国連合に二万二〇〇〇人動員「義和団事件」と日本軍の掠奪！／外国人への“死刑執行”第一号！ 横浜居留地「ミルラー殺人事件」／「汽笛一声 新橋を」で二〇〇〇万部「鉄道唱歌」大ヒット！
●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…エバンズ、クノッソス王宮を発掘（3月23日）／山陽鉄道、日本初の寝台車を営業（4月8日）／皇太子嘉仁、結婚（5月10日）／楠木正成銅像、宮城前に完成（7月10日）／立憲政友会、発足（9月15日）／チャーチル、英下院に初当選（10月11日）／慶応義塾で世紀送迎会開催（12月31日）
●人物クローズアップ
徳富蘆花、『不如帰』刊行！
●決定的瞬間
南アフリカに空前のゴールドラッシュ！
●美の出会い
竹内栖鳳、日本画家として初の渡欧
●女たちの肖像…津田梅子、女子英学塾を開校！／勝者・敗者…明治の競馬界最強！「ミラ」七連勝／証言・あの日この日…尾崎三良、河口慧海／「現場」を歩く…雫石、小岩井農場と発酵バターの一世紀／20世紀博物館…シーボルト記念館（長崎）／外から見たNIPPON…P・ロティが長崎で迎えた二〇世紀
●ベストセラー…尾崎紅葉『金色夜叉』／スターと名場面…団菊の名演「紅葉狩」／モノ語り'00…懐中時計「タイムキーパー」

日録20世紀専用バインダー
高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付しました。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円（税別）。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中（既刊98冊！ 1900・1910・1920・1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました）

一九〇〇年代
第81号1901［明治34年］

一九一〇年代
第71号1911［明治44年］

一九二〇年代
第62号1921［大正10年］

一九三〇年代
第43号1931［昭和6年］

一九四〇年代
第19号1941［昭和16年］

一九五〇年代
第36号1951［昭和26年］

一九六〇年代
第12号1961［昭和36年］

一九七〇年代
第29号1971［昭和46年］

一九八〇年代
第53号1981［昭和56年］

一九九〇年代
第98号1998［平成10年］

第91号1991［平成3年］ 第92号1992［平成4年］ 第93号1993［平成5年］ 第94号1994［平成6年］ 第95号1995［平成7年］ 最新刊 第96号1996［平成8年］ 第97号1997［平成9年］

■今後の刊行予定
▶第100号1868〜99［明治元〜32年］2月16日発売
明治という時代●「日清戦争」開戦！●浅草に高層ビル「凌雲閣」●“明治の花嫁”花と光子●「大久保利通暗殺」とテロの系譜

「日録20世紀・スペシャル」刊行決定！
1999年2月23日(火)刊行開始(本編100号終了後すぐ)。全20巻！

スペシャル第1号 日中戦争全記録！

スペシャル第2号 太平洋の戦い！

スペシャル第3号 悲劇の島・沖縄！

1. 日中戦争全記録！ 幻のニュース写真[1]（2月23日発売）
2. 太平洋の戦い！ 幻のニュース写真[2]（3月2日発売）
3. 悲劇の島・沖縄！ 幻のニュース写真[3]（3月9日発売）
4. 天皇家の1世紀
5. 20世紀二都物語・東京と大阪
6. スクープ写真集！ 外国人が撮った「不思議の国NIPPON」
7. 20世紀災害史
8. ヒット商品「100年ブランド」
9. 20世紀「号外」集成
10. 20世紀「男と女の事件簿」
11. 秘話！ 日本選手、かく戦えり
12. 怪盗・怪事件ファイル
13. 20世紀の発見・発掘物語
14. 我らの「テレビ時代」
15. 20世紀「食」事始め
16. 失われた“国宝”
17. 懐かしのオモチャ・絵本・遊び
18. 革命の20世紀「消えた王朝・帝国」
19. 20世紀「ヒット曲」物語
20. 20世紀「ライバル」物語

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円（税別）です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

雑誌　23723-2/16
Ⓛ-2001/1/1
T1123723020564

印刷　凸版印刷株式会社　製本　大村製本株式会社